

EA THE EIKO ALUMNI 88

2017年10月12日発行 ©2017 発行人:栄光学園同窓会・山田宏幸 編集人:高橋英治 印刷所:ナガシマ印刷工房
発行元:栄光学園同窓会 〒247-0071 鎌倉市玉縄4-1-1 ☎0467-44-8875 <http://www.eikoalumni.org>

2017年度栄光学園同窓会定期総会

5月13日に定期総会が行われました。この総会において山田宏幸新会長(30期)が菱沼徹臣前会長(17期)の後任として承認されました。菱沼前会長は学園の70周年記念事業の募金活動に同窓会として多大なる支援を行い、実績を



山田宏幸 同窓会新会長
(写真は8月6日記念パーティ時のもの)

築かれました。そのモットーたる血の通った同窓会活動の精神は山田新会長にも引き継がれます。同窓会員は一丸となって山田新会長を盛り立てていきたいと思いません。

栄光祭開催

5月13日(土)、14日(日)に第70回栄光祭が開催されました。新校舎での初めての栄光祭ですので、例年よりも多くの方が新校舎見学を兼ねていらっしゃいました。今年のOBの部屋アラムナイは、その運営を64期の卒業生に委託し、単なるお手伝いではなく、自分たちでOBの部屋を管理してくれたことは頼もしい限りです。

第9回栄光OBフォーラム 隈研吾塾

6月4日(日)には新校舎の計画監修を担当された隈 研吾氏(21期)、設計を担当された崎山 茂氏(25期、日本設計)、施工を担当された佐々木 敏氏(大成建設)によるご講演と、パネルディスカッションが栄光学園大講堂にて行われました。

さらに第2部として、日本設計崎山氏、岩村雅人氏(34期)、吉岡紘介氏(55期)、大成建設佐々木氏による解説付き校舎見学ツアーが20人程度のグループ単位で行われ、多くの見学者が設計、施工を担当された方の生の声をうかがいながら校舎を巡ることができました。

EIKO 70th Anniversary FESTA開催

8月6日(日)にEIKO 70th Anniversary FESTAとして記念コンサートならびにパーティーが開催されました。

横浜みなとみらい大ホールにて行われた栄光OBの音楽家と、このコンサートのために構成された栄光学園創立70周年記念管弦楽団による演奏、栄光メサイアソサイエティによる合唱には1500人を超える入場者がありました。

引き続き、隣接する横浜ベイホテル東急で行われた記念パーティーでは1期から現役学生までの幅広い世代が集い、会場はいっぱいになりました。コンサートの合唱などに参加された女性も多く、栄光OBのイベントにしてはいつにないく華やかでした。

コンサートに出演されたOB音楽家たちの特別セッションや、各世代の卒業生によるトークセッションなど、世代を超え楽しい時間を共有することができました。

主な目次 No.88

学園からのメッセージ	2	母校の様子、恩師の事など	15
同窓会会長挨拶	2	OB便り	19
70 th Anniversary FESTA他イベント報告	3	同期会	24
特別委員会の設置について	6	支部活動	29
2017年度同窓会定期総会報告	8	歴史文学散歩	30
OBゼミ予定(10月以降分)	14	支部イベント予告等	32

学園からのメッセージ

ご挨拶

栄光学園中学高等学校長 望月伸一郎

同窓会のみなさまには日ごろより学園の教育活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。特に70周年事業の募金にも多大なるご寄付をいただいておりますこと、あらためて御礼を申し上げます。

みなさまのご支援をいただきまして、新校舎を今年4月より使い始めております。この校舎で毎日を過ごすようになってから、この原稿を書いている時点でまだ半年もたっていないのですが、そのことが信じられないように思います。仮設校舎にいたことがはるか遠い昔の出来事であり、ずっと以前からこの校舎にいるような気がいたします。それというのも、新校舎という器が、中身ともいえる教育活動そのものにとてもよくなじみ、まったく違和感がないからでしょう。本当に栄光学園らしい校舎であると思います。

どの教室からもすぐに屋外に出られるので身体を使って活動する、職員室には壁がなく教員との距離が近い、ラーニングスペースでは生徒同士が一緒に勉強したり語りあったりする。こうした栄光学園の日常的な行動の特徴をふまえた空間が新校舎の随所にあるので、生徒にとっても教員にとっても、この校舎がとても使いやすいのだと思います。

さて、同窓会のみなさまが中心となっただき、後援会・栄光会ならびに学園との共催という形で栄光学園創立70周年記念コンサート・記念パーティーがさる8月6日に開催されました。夏休み中であつたにもかかわらず現役の生徒・保護者も多く参加させていただき、本当にありがとうございました。

在校生とその保護者にとっては、このような集まりに参加するという事は、栄光学園とのつながりが、在籍している6年間にとどまらず末永く続くものであるということ、社会の中で活躍している先輩たちがたくさんいらっしゃり自分たちもそのファミリーの一員になっていることなどを改めて確認することのできる大切な機会であると思います。このコンサートとパーティーの準備と運営に携わられた同窓会役員のみなさま、本当にありがとうございました。

法人合併から一年あまりがたち、上智大学をはじめ六甲学院・広島学院・上智福岡とも様々な面で人や情報が行き来することが多くなりました。先日も上智大学から、今年10月にジャマイカで開催される国連開発計画（UNDP）主催の『気候変動に関する学生会議』への参加呼びかけがあり、

本校の生徒3名が選ばれて上智大の学生と一緒にキングストンでの会議に出席することになりました。

また、この夏休みもイエズス会学校同士のネットワークを活かしたプログラムが行われました。

フィリピン・セブのイエズス会学校（セイクリッドハートスクール）に10名の生徒が2週間滞在し、交流をしてきました。この交流はもう20年以上も続いています。また、アメリカのイエズス会の大学であるボストンカレッジで開かれるイエズス会教育に関するセミナー（Ever to Excel）に今年も本校の31名の高校生が参加し、約一週間現地高校生と一緒に研修をしてきました。今後もこうしたイエズス会学校のネットワークを活かした活動を継続し、より一層充実させたいと考えています。

今後とも同窓会のみなさま方のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。

同窓会会長挨拶

同窓会会長に就任して

栄光学園同窓会会長 山田宏幸（30期）

去る5月13日（土）に開催されました2017年度栄光学園同窓会定期総会において、2年の任期で同窓会長にご選出いただきました、30期の山田宏幸と申します。菱沼前会長を始め、多くの先輩方が築いてこられた本同窓会の輝かしい歴史と素晴らしい伝統をさらに発展させ、若い世代へ引き継いでいけるよう、微力ながら出来ることを最大限行っていく所存です。もちろん、一人では何も為し得ません。同窓会執行部、幹事、事務局等と力を合わせ、会務に邁進してまいりますので、会員の皆さま方におかれましては、より一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

母校栄光学園は、今年の6月で創立70周年という節目を迎えました。校舎も新たに建設され、この4月から後輩たちは真新しい校舎で充実した学園生活を満喫しています。新校舎は、2階建て鉄筋コンクリートと木材のハイブリット構造で、大地に近い、空に近い、仲間に近い、「みらい」を先取りしたものです。21期、隈研吾氏設計の新国立競技場の絵姿が、母校新校舎のコンセプト・イメージに似ていると感じるのは、おそらく私だけではないと思います。この先進的で魅力ある新校舎に、栄光の若い力と歴史、伝統を重ねることで、より一層学園が充実し、発展していくことと思います。改めまして、多くの会員の皆さまの新校舎建築への多大なるご支援に感謝申し上げます。

私は、大船世代の30期生ですが、おそらくこの世代が栄

光創設期の先生方に教鞭を執っていただいた、ほぼ最後の世代だと認識しております。グスタス・フォス初代校長を始めとした“栄光”を創った先生方に直接“説教”された者として、その理念を後世に伝えること、そして1期から65期まで、1万人を超える会員の皆さまが、同じDNAを持つ“同士”として有機的に繋がること、さらには学園と同窓会が、現役生と卒業生が良好に繋がれるようにすることが、私に与えられた使命であると考えています。1～65期の同窓会員の中で、中ほどを少しだけ通り過ぎた30期生が同窓会長を拝命したことの意味を日々思考し、少しでも意義のあるものにしていければと思います。

これまでの同窓会活動で私は、後藤、高須元会長、菱沼前会長のもと、主に同窓会が主催する各事業、イベント等に関わってまいりました。特に菱沼前会長の4年間は、副会長として会長職務に多く同行し、様々な勉強をさせていただきました。菱沼前会長が進めた「血の通う同窓会」を継承しつつ、さらに同窓会活動を活性化させ、より強固・盤石なものとするために、この2年間は「人を繋ぐ、人が繋がる同窓会」というテーマを掲げ、人を繋いでいく同窓会活動、人が繋がる同窓会の仕組みを作るための施策を行ってまいります。

「人を繋ぐ、人が繋がる」のイメージとしては、同期を横の繋がり、部活動や地域の支部などを縦の繋がり、さらには趣味などの自主的な活動による繋がりを斜め、樗(たすき)の繋がりとし、同窓会から仕掛けるとともに、それぞれが自ら繋がりやすい同窓会の仕組みを構築していきます。また、未来に向けた同窓会のあり方、あるべき姿なども併せて議論し、整理したものを皆さまにお示ししていければと考えております。

具体的には、現在実施している各部同窓会活動を継続しながら、以下の課題について検証、検討などを行い、改善や再構築を進めてまいります。

1. 名簿のあり方及び会員データベースの整備・活用について
2. ホームページやALUMNIなどの広報媒体のあり方、具体的な手法検討
3. 会員間のコミュニケーションツールの検討・構築
4. より有効で会員ニーズに合致した同窓会事業の検討
5. 会費のあり方、請求方法の検討

“1～3”は、アナログからデジタルへの移行という時流において、どのように電子データを取扱い、共有し、セキュリティーを担保した中で、利便性を高めていくか、データ精度を高めていくかということになります。しかし、幅広い会員の世代にも配慮し、段階的に移行していくことも必要です。“4”では、幅広い世代を意識した会員ニーズの把握と、ニーズに合致した“参加したくなる”同窓会事業の提供について検討し、実践していきます。また“5”では、前述の“1～4”やその他同窓会事業に掛かる費用、同窓会運営の事務的経費

等を勘案し、財政計画を検討・策定して会費納入率や納入方法など会費のあり方を検討します。事業と財源、支出と収入の中長期的なバランスを整え、本同窓会を持続可能な、盤石なものとしていきたいと考えています。

これらの課題は、相互に関連する要素を多く含んでおり、単独では解決し難いものであるがゆえに、長年に亘る懸案事項となっています。また、名簿や会員間コミュニケーションについての課題を改善するため、近年導入した“EACON”についても、さらなる改善や運用の検証・検討などが必要です。課題の多くは、組織的に複数の部に跨るものであるため、総務部を事務局として組織横断的な特別委員会を立ち上げ、これらの課題を総合的に捉え、将来あるべき全体像を見据えた上で、一つずつ具体的に改善、再構築し、解決していくこととしました。特別委員会では、執行部のほか、中堅、若手の常任委員、期委員にも複数名参加していただくことで、様々な世代、立場、経験、知識などから多面的に斬り込んだ議論を展開していきます。検討経過等は、適切なタイミングで皆さまにお知らせいたしますので、ご意見などをお寄せいただければと存じます。

学園の法人合併、望月新校長のご就任などを経て学園創立70周年の節目を迎え、母校が新たなステージへ移行していることを感じます。母校と同窓会の関わり方、各イエズス会校同窓会との関わり方や連携などを、関係者の皆さまと積極的に議論し、相互のさらなる発展を目指してまいります。学園で学んだこと、同窓会に携わらせていただいていることに感謝し、全ての会員の皆さまの下支えとなる気持ちを常に持ち、「men for others, with others」を実践できるよう、微力ながら頑張っていく所存です。至らないことも多々あると存じます。多くの皆さまから、ご指導、ご助言などをいただければ幸いです。

「人を繋ぐ、人が繋がる同窓会」というコンセプトのもと、同窓会員、在校生、さらには姉妹校を含めた栄光学園に関わる全ての方がより良く繋がることができるよう、皆さまの、同窓会活動への、より一層のご理解とご協力を賜うことができましたら幸甚です。併せて、同窓会活動へ積極的にご参加いただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

同窓会イベント

EIKO 70th Anniversary FESTA

事業部

8月6日(日)に横浜みなとみらいホールにて70周年記念コンサートを開催し、多くの来場者を迎えることができました。指揮・ピアノ内藤 晃氏(52期)、ヴァイオリン高橋宗芳氏(48

期)、ピアノ鈴木隆太郎氏(56期)といった卒業生音楽家に加え、元教諭吉田秀文氏の指揮、栄光学園創立70周年記念管弦楽団の演奏、栄光メサイアソサイエティの合唱と多くの学園関係者が出演し、栄光学園の音楽への造詣の深さを示してくれました。

また、引き続き横浜ベイホテル東急で行われた記念パーティーには上記の演奏者に加え、駅メロ作曲でもおなじみの音楽家塩塚 博氏(23期)による演奏タイムや各世代卒業生が登壇してのトークタイムでも盛り上がりました。

コンサートに出演いただいた内藤 晃氏(52期)、パーティーの企画、演出を担当してくれた大須賀喜彦氏(39期)にうかがった感想を掲載します。

EIKO 70th Anniversary FESTA コンサート

内藤 晃 (52期)

栄光の皆さんに会うと何やらほっとするのはなぜでしょうか。世代を超えて、ことばと感性を共有できる安心感があり、改めて10代を過ごした6年間の貴さを実感します。今回の70周年コンサートも、沢山の方が参加してくれましたが、どこか共通した「栄光色」のようなものが音楽に漂っていたのではないのでしょうか。ステージに参加してくださった皆さま、そして、運営にご尽力くださった皆さま、ありがとうございます！

コンサートは、私も含めた3人のソリストのコンチェルト祭りで、48期の高橋宗芳さんがサン＝サーンスの「序奏とロンド・カプリチオーソ」、56期の鈴木隆太郎さんがラヴェルのピアノ協奏曲を私の指揮で演奏し、私はベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番の弾き振りでピアノも弾かさせていただきました。また、後半には、吉田秀文先生とメサイア・ソサイエティによるヘンデル「メサイア」が抜粋で披露されました。



弾き振り中の内藤 晃さん(52期)

実は、私に最初に指揮法やスコアの読み方の基礎の手ほどきをしてくださったのは、校歌の作曲者でもある音楽の

沖喜英雄先生です。沖喜先生は、私の期と入れ替わりに栄光をお辞めになったので本来接点がなかったのですが、1期上の高橋広行さんが作文コンクールで沖喜先生との運命的な出会いを綴って入選、作文コンクールの冊子で興味を抱いた私を高橋さんが沖喜先生宅に連れて行ってくれました。そう考えると、栄光の作文コンクールが私の人生に意味を持ったと言っても過言ではなく、出会いとは面白いものです。今回その高橋広行さんがヴィオラで参加され十数年ぶりに一緒に音楽できたのも、個人的にとっても嬉しいことでした。



鈴木隆太郎さん(56期)



高橋宗芳さん(48期)

EIKO 70th Anniversary FESTA パーティー

大須賀喜彦 (39期)

栄光学園を卒業して、ずいぶん年月が経ちました。同級生との接点は年に数回あるとは言え、先生や先輩後輩に会う機会は、年々、減って来ています。

昨年末より、栄光学園が新校舎に生まれ変わるとの事で、映像を制作したり、新たなホームページを作る仕事に携わって来ました。

創立70周年記念オール栄光ゴルフコンペ2017開催

菅野 洋 (22期)



演奏のみならずトークも素敵な塩塚 博さん(23期)

新校舎竣工式で知り合う事ができた、先輩に声掛けて頂き、今回、70周年記念パーティーの企画進行を任せて頂けて、本当に光栄でしたし、少しプレッシャーも感じていました。ただ、声掛けて頂いた先輩が、サッカー部の先輩でしたので、何か起きたとしても、庇ってくれるような雰囲気があったので心強く思いました。社会に出てから、母校のために仕事をする機会は中々ないので、全力で臨む事ができ、たくさんの恩師や先輩から、「パーティー良かったよ。」って、声を掛けて頂いたのは、心の底から嬉しかったです。

少しでも、自分を育ててくれた栄光学園に恩返しのできたのかな、と思っております。

8月27日(日)に、東京都稲城市のよみうりゴルフ倶楽部にて昨年に引き続いて創立70周年記念オール栄光ゴルフコンペ2017が開催された。コンペには、栄光学園の1期から61期までの卒業生110名と栄光学園副校長の林直人先生の計111名が参加したが、参加者は一桁台の期と40期以降は少なく、中心は20期台であった。これは、以前に栄光コンペが平日に行われていた時代とは違って、以前の栄光コンペを知る卒業生にとってはやや寂しい感じもしたであろうが、時代が変わって来たということかもしれない。

今回の開催に当たっては、27期の岩倉宏司氏がよみうりゴルフ倶楽部のメンバーとしてご尽力いただいたことをまず感謝したい。幹事団は、20期と22期で構成され、代表は20期の高桑毅氏であった。高桑氏は、事前の打ち合わせ会から賞品の手配、データの集計まで、何から何まで先頭に立って本業もそっちのけでオール栄光ゴルフコンペのために日夜時間を裂いて準備をしていただいた。その20期と22期の幹事団の期を中心に参加者を集め、その甲斐もあって参加者は昨年同様110人を超えた。期対抗の優勝は幹事の20期(グロス総合優勝)と22期(ネット総合優勝)であったが、両期が多くの人を集めたことが大きく奏功したことは偶然ではないと思われる。

栄光学園副校長の林先生には参加していただいただけでなく、沢山の賞品を栄光学園からご寄附いただき大いに感謝申し上げたい。

この日は、幸い好天に恵まれたが、夏の終わりで蒸し暑い状態であった。よみうりゴルフ倶楽部は、井上誠一氏の設計による名門コースで芝はよく整備されており、お蔭で気持ちよくプレーすることが出来た。そのためか、スコアは皆予想以上によく、ハイレベルであった。111人中70台が7人、80台が31人で、グロスの最高は、20期の小島宏氏の72



オール栄光ゴルフコンペ集合写真 (2017.8.27)

(out 39, in 33)であった。ゴルフは、8時過ぎから10時すぎまで4人ひと組でアウトとインからスタートしていき、最初の組が上がってから最後の組まで皆期を越えてパーティー会場の隣の控え室で、和気あいあいと歓談しながら大いに盛り上がっていた。

ゴルフの話に戻るが、よみうりゴルフ倶楽部のコースは、アウトとインでは、少し趣が異なり、アウトは本格的で風格を感じさせるコースに対して、インはやや短く少しトリッキーな感じのコースであり、これはアウトだけが井上誠一的设计によるものだからとのことであった。いずれにしても、いいコースであるは違いなく、こうした都心に近いコースで、大規模なコンペが開けたことは、岩倉氏によるところが大きいと思われた。

プレー後のパーティーは、山田同窓会会長の司会で行われ、1期の徳永さんのご挨拶から始まり、林副校長先生の学園の話から成績発表につづいて、優勝者と優勝の期の弁があった。次回の幹事は成績により、優勝の22期と5位の8期で務めることになったので、このアラムナイの読者のご参加を是非お願いしたい。

来年も8月の最終日曜日に「よみうりゴルフ倶楽部」でお会いしましょう！

同窓会からのお知らせ

同窓会管理部門積年の諸課題解決のための「特別委員会」設置について

総務部長 青木嘉光（10期）

この「特別委員会」は新会長の「人を繋ぐ、人が繋がる同窓会」と言うコンセプト具体化のため、執行部即ち事務管理各部が抱える「ひと」、「もの(情報)」、「かね」に関する諸課題の解決を目的に設置を提案し、7月の常任委員会で御承認を頂いたものである。

前会長の4年間、東京でのフォーラム開催など活動面では活性化のいくつもの成果があった。半面、事業部以外の執行部即ち事務管理各部が抱える問題については、多くがずっと以前から指摘されながら未解決のまま残った。そこで、総務部を事務局として各部横断的な検討会を立ち上げ、今年度一年間をかけ定期的に議論を続け対応策を見出し常任委員、会や常任委員各位のご意見もお伺いしながら、少しずつ実践に移していくことを目指している。

まず、「人を繋ぐ、人が繋がる同窓会」と言う新会長のコンセプト具体化のためには、「もの(情報)」の課題であるホームページの整備が第一に求められる。それには昨年度から続いている「WEB版名簿」検討の延長線上で、EACON・

ホームページを会員が「繋がるプラットフォーム」として利用しやすいようにリニューアルすることが必要である。EACONについては5月の総会でもご意見が多く出されていた。その検討を進めれば、関連して、「ひと」=実働力の問題、「かね」=費用に絡んで、会費納入率を上げる等の問題が議論されることにならざるを得まい。具体的には9月から、次の様な問題への対策について議論を始めていく。

【I】「ひと」の問題

活動面で新しい企画が実現し活性化の成果が出て来るにつれ、活動を支える実働力の不足が慢性化し、一部の人達への負担が重くなるという傾向が激しくなっている。広報部、事業部など実働力増強の必要な部署をもう一度見直し、絶えず会員の皆様のご協力をお願いするなど実働力の募集方法を議論していく。但し、議論の状況を見るまでもなく、会員の皆様の中で「同窓会の運営に協力してみたい」と言う方がおありであれば、是非今すぐにも事務局へメール又はお電話で御連絡頂けると大変有難く、是非ともよろしくお願い致したい。

また同時に、期委員の方々に同窓会の運営へ一層のご協力もお願い致したい。ご参考までに、総会前に行った各期・期委員の情報更新への回答状況及び総会の出欠状況は別紙の通りである。活動の不活発な期には、重ねてご協力をお願い致したい。

期委員の状況調査への回答有無と総会への出欠について

期	回答有無	総会出欠	備考
1期	有	出	
2期	有	出	
3期	有	出	他欠連絡有り
4期	有	出	他欠連絡有り
5期	有	出	
6期	無	出	他欠連絡有り
7期	有	出	
8期	有	出	
9期	有	出	
10期	有	出	
11期	有	出	他欠連絡有り
12期	有	出	
13期	有	出	
14期	無	出	
15期	無	欠	
16期	有	出	
17期	有	出	
18期	有	出	他欠連絡有り
19期	無	出	サッカー一部OB会(期委員ではない)
20期	無	出	他欠連絡有り

21期	無	出	
22期	有	出	新・旧常任委員出席
23期	無	出	
24期	無	欠	
25期	無	出	明治安田生命栄光会
26期	無	出	他欠連絡有り
27期	無	出	
28期	有	出	
29期	無	出	
30期	無	出	
31期	無	出	
32期	有	出	
33期	有	出	会計監事
34期	無	欠	
35期	無	欠	
36期	無	欠	
37期	有	出	
38期	無	欠	
39期	有	出	
40期	有	出	
41期	無	欠	
42期	無	欠	
43期	無	欠	
44期	無	欠	
45期	無	出	他欠連絡有り
46期	無	欠	
47期	無	欠	
48期	無	欠	
49期	無	欠	
50期	無	出	栄光建築人の会
51期	無	出	
52期	無	欠	
53期	無	欠	連絡有り
54期	有	欠	連絡有り
55期	無	欠	
56期	無	欠	
57期	無	出	
58期	無	欠	
59期	無	出	他欠連絡有り
60期	無	出	
61期	無	欠	
62期	無	欠	
63期	無	欠	
64期	無	出	
65期	有	出	他欠連絡有り

*総会出席の内、19期・25期・50期・57期は支部会参加です。

【Ⅱ】「もの(情報)」の問題

総会でもEACONに関し、たくさんの意見が出た。EA

CON導入後3年、この状況を真摯に受け止め議論していくべき時期に来ている。現在のホームページとEACONとの構成を一新し、メニュー、サブメニューをプルダウン形式にし、会長挨拶、同窓会の沿革、組織、会費、事務局、会則等最低限の形式も整えるなど、もう少し使いやすくまた格調のあるホームページを会員に提供できるよう検討していきたい。また「画面」のリニューアルだけでなく、日々の維持運営体制についても今後の持続性を考え再構築することが求められる。現行のプロバイダーをはじめ外注先との交渉も視野に入れ議論を進める。

以下に、ご参考までに、総会でのEACONへのご意見、ご質問の要旨を再録する。

.....

会員(4期):EACONに関して、広報部のマターに、総務部からの報告にある通りとあるが、EACONはスタートから既に3年ぐらいたっているが、現状の利用状況等について説明してください。

会員(7期):同窓会のホームページに期別のEACON参加の人数が載っています。これを全部集計してみたところ、約1200人、まあ、ちょうど1割ですね。3年経って、この状態ですと、私は、会員の皆様にこのシステムが浸透しているとは到底言えないのではないのかなと思っています。私が考えるに、システムがあまりにも重すぎる。一旦入ってみると、あまりにも迷路のようで、もう二度と入りたくない。

会員(3期):4月になって、全体の期の会合をしたんですけど、その中で、我々栄光のシステムの安全性、また他所へデータをボーンと渡してしまうことの安全性、一体、それがどう確保されているのか、特にいま、うちのホームページが色々繋がらないとか表示が出て、それがズート何か月も続いています。それもあるのかなと。

会員(11期):EACONは、やはり名簿管理が一番使えると思っています。基本的にはあのEACONは本人が分かるから本人がやりなさいってなっていて、そのためにパスワードも来ているんですが、あのアップデート方法をもう少し、違う方法にした方がいいんじゃないか、各人がそのまま入力するのは難しいと考える。

会員(51期):先程、2016年度の事業報告で、EACONに対する不満が色々あったんですけど、私からすると、住所変更も自分で出来るこの仕組みは非常にいいと思うんです。そこで聞きたいんですけど、SNSとの差別化とかですね、昔は確かFACEBOOKか何かのコンテンツを流し込めるようなオプションがあったようだったが、今見ていくとない。そこら辺をどっちの方へ行くのか……。

.....

なお、同窓会名簿検討特別委員会が進めてきた『WEB版名簿』については、(株)イーストゲートと機能修正を交渉。

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
当期収入合計	ホームページへのバックナンバー掲載に際し、 収支計算書比較を割愛させていただきます(広報部)						
入会金							
会費							
前受金(調整勘定)							
当期支出合計							
総務費							
内給与							
内各種印刷費							
内通信費							
内交通費							
内振込手数料							
内総会等会議費							
内慶弔費							
事業費							
内名簿印刷費							
内会報印刷費							
内発送費							
内HP運営費							
内JJHAF							
内支部等支援費							
内OBフォーラム							
内ホームカミングデイ							
当期収支							
前年度繰越金							
当期繰越金							

(ご参考) 単年度収支計算書比較 (単位: 千円)

2月に会員検索画面修正を実施。その後、出て来た問題点の一つ「検索者自身が表示されない」という点については再修正完了。もう一つの問題点「一桁台の検索がうまくいかない」と言う点については、引き続き修正を交渉中である。

【Ⅲ】「かね」の問題

現在の収支を概観すると、年間、会費を主体に11,000千円程度の収入があり、それを総務費5,000千円、事業費6,000千円の支出にあてバランスは取れている。従来2～3年に一度、名簿発行に5,000千円程度必要であったが、WEB版に替わる以降はこの負担が無くなり、少しは余裕が出よう。ただ、やはり、財務部の総会での説明にもある通り、30期代、40期代、50期代の会費納入率が30%前後にとどまっているというのは、将来に対する大きな不安である。今のうちにもう一度原点に戻って、会員の納入率アップを工夫する時期にあるように思える。その方策を議論し出来る対策から実行に移して行く。

なお、姉妹校の某校のホームページを見ると、「会費納入のお願い」として、「会員には会費納入の義務があります。会費は〇〇会にとって重要な収入であり、〇〇会運営にとって貴重な財源です。未納の方は是非納入してください。」と明記してあります。栄光学園同窓会にとっても、会費が運営の貴重な財源であることは同じです。現在未納の方のご協力をお願い致します。

2017年度 栄光学園同窓会定期総会議事録

事務局長 前山茂雄 (13期)

[日 時] 2017年5月13日(土) 12:00～14:15

[場 所] 栄光学園アロイジオ会館ホール

[出席者] (カッコ内の数字は卒業の期)

会長: 菱沼徹臣(17)、副会長: 関根修一(20)、山田宏幸(30)
 部長: 青木嘉光(10)、島崎裕之(26)、増木洋介(30)、近藤亮介(45)

常任委員: 大石 進(2)、東海林 修(2)、鈴木宙明(4)、河相董(8)、内山正樹(9)、本山駿一郎(10)、後藤典彦(11)、花井勝三(12)、大島弘尚(14)、新井 隆(14)、蓮沼 明(17)、広瀬裕敏(21)、菅野 洋(22)、松田信也(22)、佐藤耕太郎(27)、磯村信一(28)、中路喜之(29)、宮川祐一(30)、壺岐 太(32)、河原光博(37)、石田明久(51)

会計監事: 上甲雅敬(33)

事務局長: 前山茂雄(13) (記)

(以上役員・常任委員 30名)

支部役員: 花井勝三*(栄光学園野球部OB会 12)、高橋正明(サッカー部OB会 19)、*(兼) 古谷哲夫(物理部OB会 21)、梶原章宏(バドミントン部OB会 57)、平岡慎雄(インディアンクラブ 17)、川田俊一(生物部OB会 8)、鬼

頭文彦(栄光医師会 14)、高瀬幸造(栄光建築人の会 50)、上原 真(栄光学園横須賀OB会 31)、森 義博(明治安田生命栄光会 25)、牧野文勝*(藤沢栄光会 11)、田中尚武(逗葉栄光同窓会 10)

(以上支部役員 10 名) (除く(兼)出席者)

各期委員:小島恒雄(1)、富山英昌(3)、梅津尚志(4)、合田純一(4)、赤井明郎(5)、三春勝正(6)、石川俊克(7)、荻原佳樹(7)、齋藤 肇(7)、高井直紀(8)、小久保勝右(9)、八木英樹(9)、山口憲一(9)、奥山 巖(11)、牧野文勝(11)、杉浦俊紀(16)、前田 洋(18)、井上直樹(23)、前田真孝(29)、宮崎一秀(31)、川村貞知(37)、加藤太一(37)、村井基彦(37)、大須賀喜彦(39)、西條 達(40)、佐々木健太郎(40)、片桐悠貴(51)、遠藤健一(59)、内山和輝(60)、木戸悠介(64)、加納岳洋(65)

(以上各期委員 31 名)

総計 71 名

来賓:望月伸一郎 校長

【議事内容】 1 議長の選出 仮議長を務める関根副会長(20)が開会を宣言し、議長に花井常任委員(12)を選出した。

2 菱沼徹臣 同窓会会長挨拶: 生憎の雨の中、多数のご参加ありがとうございます。初めに、70周年事業について、皆様方からの多大なご協力をいただきありがとうございます。寄付については総額5億円という目標に対して、現在3億5千万円集まっています。来年3月まで継続しますので、重ねて皆様のご協力をお願いします。同窓会の状況は目標2億円に対して2億1千万円と目標をクリアしていますが、全体としては未達なので更に頑張っていきたいと思っています。今年度も色々な企画を用意して更に機運を盛り上げてまいります。今回提案する新人事案は既に議案書に載っています。私の会長在任は4年になりましたので今回退任させていただきます。山田現副会長(30)に新会長をお願いしたいと思います。17期から30期と大きく飛ぶようですが、今年の卒業生が65期であることを考えると半分以下であり、決して若過ぎるとは言えないでしょう。副会長・部長などの役員はほとんど留任してサポートしていくので実務型の執行部が出来ると思っています。学園祭が新校舎で行われているので、ぜひ見て頂いて、心を新たに同窓会のDNAを長く継承されるよう同窓会活動へのご理解・ご協力をお願いして私の挨拶いたします。

3 望月 伸一郎 校長のご挨拶: 皆様から多大なご支援を頂いていることに対し学園を代表して心からお礼申し上げます。栄光会への働き掛けが今後の課題として残っていますが、何とか目標の総額5億円を達成するよう頑張ろうと考えています。本日は「栄光晴れ」で雨ですが、新校舎起工式も

大雨でした。節目節目で雨が降っていますが、雨が降ればその後必ず晴れるので、これからの学園の更なる発展を図っていききたいと思います。学園はいろいろな意味で節目を迎えています。学校法人の統合・イエズス会神父不在となって1年が経過しました。70周年の新しい校舎を節目に、栄光学園のスピリッツ、カトリックの精神を基盤としながら、新しい時代にどう応えていくかということが喫緊の課題となっています。取り組まなければならない課題もたくさんあるので、同窓会の皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いします。

4 65 期委員紹介 花井議長より今年入会した65期の委員6名(上野裕太、岡本涼太郎、加納岳洋、張 勇博、平井幹大、野田 直)の紹介があり、加納氏から新任の挨拶があった。「ついこの間まで教室にいたのでこの会に参加していること自体が驚きですが、これから栄光ファミリーとしての繋がりを保っていけるよう、同窓会で頑張っていきますのでよろしくお願いします。」

5 2016 年度事業報告 関根副会長から、議案書に沿って報告を行った。

2016 年度は「血の通う同窓会」のモットーのもと、活性化の 4 年目として諸施策に取り組んできた。一層のコミュニケーションの活発化と情報発信及び共有の促進を狙い、ホームページの充実や、会員専用ネットワークEACONの普及、改良を行うなどした。母校創立70周年事業への支援では、募金委員会(学園、栄光会、後援会、同窓会 4 者の連絡会)で引き続きイベント等の企画を提案し、同窓会事業として栄光OBフォーラム@TOKYO2016 などを実施した。活動サポートは、各期の活動活性化を模索するとともに、北海道栄光会の支部申請を支援するなどした。また70周年記念として開催された「オール栄光ゴルフコンペ」にも協力した。今後は、若手の掘り起こしなど、さらなる活性化を模索する必要がある。総務では、「同窓会名簿検討特別委員会」を開催し、名簿のあり方などの検討を進めた。委員会としての一定の方向性は見えてきたものの、具体的な対応方法などは継続課題となった。また、会費徴収及び経常収支といった課題についても、名簿と併せ、次年度以降の継続課題となった。

1 総務部

・改正個人情報保護法に対応する会員名簿のあり方を検討した結果、既存ソフト修正による“Web版名簿”を目指すこととし、評価版を公開した。

・昨年度施行した改訂会則は、一年経って不都合などは出なかったが、狙った同窓会活性化に資するため引き続き努力が必要である。

・事務局との連携を密にして業務を進めた。

・イエズス会校同窓会連絡会(JJHAF)が広島学院中学高等学校で行われ、会長と副会長が参加した。

2 財務部

・会費請求は、第3グループ745名の会員とその他グループのうち未納の会員2,859名に請求書を発送した。

・口座振替利用率は、前年と同水準の26%となった。

・50%超えを目標とした会費の納入率は、対前年比 2 ポイント悪化の 45%となった。

・期別の納入率を見ると、概ね若いほど納入率が下がり、このまま推移すると10年後には納入率 41%で100万円程度の減収が予想される。

3 広報部

・会報「栄光アラムナイ」は、2016年10月に86号、2017年4月に87号を発行した。

・同窓会ホームページ(HP)は、随時新しい記事を公開しつつ運用している。

4 事業部

・栄光祭でホームカミング・ディ(OBの部屋「アラムナイ」)を実施した。

・11月に「栄光 OBフォーラム@TOKYO 2016」を、御茶ノ水のホテル東京ガーデンパレスで実施した。

・OBゼミ(高1ゼミ、公開ゼミ)に、26期・36期からOB講師を派遣した。

・歴史・文学散歩は、三春勝正氏(6)・大島弘尚氏(14)を中心に4回実施した。

・70周年事業に関連し、OBフォーラムでの寄付呼びかけ・新校舎内覧会の運営支援を行った。

5 活動サポート部

・同期会開催の支援を継続した。

・現有の支部活動状況を把握し、新支部の立ち上げを促し、支援した。

・歴史あるオール栄光ゴルフコンペの再活性化のため、同窓会としても活動を支援することとした。

・母校創立70周年記念オール栄光ゴルフコンペの開催に協力し、多数の参加を得て成功を収めた。

・東ティモールイエズス会校支援では、学園から寄贈する什器備品の輸送費の一部として寄付した。

質疑:

Q 鈴木(4): 広報部・総務部の報告にあったEACONは、スタートから3年位経過していますが、現状について説明をお願いします。

Q 齋藤(7): 鈴木委員の質問の関連質問です。EACONについて同窓会員に聞いたり、各期グループへの参加人数を調べたりしたところ、ほとんど使われていないと思われる。これはEACON導入時に、既に各期の情報ネットワークが

出来ていたためと考えられます。また、システムが重く、思うように動いてくれないということもあります。現状の分析と今後の展開について説明をお願いします。経費が年間約60万円かかっており、相応しいものになって欲しいと思います。

A 増木事業部長(30): EACONの立ち上げ当初から関わっています。EACONの課題として次の3項目を考えています。1)機能:当初、名簿だけでは面白くないと思い、市販されているツールからコミュニケーション機能もあるシステムとして選択・導入しましたが、コミュニケーション機能はFacebookなどの専用ツールにはかなわないことが判明し、今後は名簿機能に特化していきたいと思っています。紙の名簿との役割分担については今後検討していきます。2)広報:進行中の機能改善に合わせて、PRを強化していきたいと思っています。3)使い勝手:いろいろな課題があることを把握し、業者に改善を依頼しています。例えば名簿の表示一覧性については改善出来ましたが、更に検索方法の改善なども進めていきます。EACONの名簿は紙の名簿と比べメリットも多いので、このシステムをさらに改善し、より一層使ってもらえるようにしたいと考えています。

Q 富山(3): 同期会などで情報漏洩の懸念が話題になります。紙・電子情報共に心配されます。EACONについては、情報漏洩対策は十分ですか。

Q 奥山(11): プロフィールデータの更新は、各人が行うのは難しいと思います。簡単に出来るようにならないでしょうか。

A 増木事業部長: 情報セキュリティについては、EACONの運営を依頼している会社がプライバシーマーク認証を取得していること、またデータサーバーをやはり同認証を取得している外部の会社に置いていることから、一般的レベルのセキュリティは確保できていると考えています。データの更新については、ポリシーとしては各人に更新をお願いしていますが、従来同様ハガキなどによる更新連絡でも受け付けています。いずれにせよ本人がアクションしないと更新できませんので、会員の皆さんの自覚は必要です。ここでEACONの議論で盛り上がったことを、関心が高いということと捉え、期待に沿えるよう進めていきたいと思っています。

C 花井議長: 今回の議論も踏まえて、執行部として更なる改善に努めていきたいと思っています。

Q 古谷(21): 会費納入方法について質問します。新卒業生全員を口座振替にしていく方針ですか。会費請求の際、口座振替申請書の同封など口座振替を勧めるようにしていますか。振替口座の変更をもっとやり易くすることは出来ないでしょうか。

A 近藤財務部長(45): 新卒業生からは、卒業時に4年分の会費を前受けしており、口座振替ではありません。4年後に口座振替をお願いしています。口座振替への勧誘は毎年の会費請求の時に申請書を同封しています。振替口座の

変更は想定しておらず、本人の申請により対応しているのが現状です。

6 審議事項 第1号議案 2016 年度決算承認に関する件
近藤財務部長から、収支計算書及び貸借対照表について説明した。収支計算書を見ると、当期収入は対予算84万円減の1081万円であり、会費納入率が若干下ったことによるものである。当期支出は対予算428万円減の1132万円であった。予算を多めにとっていたが、ほとんどの科目で平年並みに収まった。貸借対照表では会費前受金が800万円強あり、総資産額は5138万円になっている。引き続き、上甲会計監事(33)より監査報告が行われ、「原田会計監事(24)と共同で監査した結果、収支計算書及び貸借対照表の内容は適正なもの認められる」との報告があった。

質疑

Q 富山(3): ホームページ運営費として、ホームページ費用とEACON費用が合計されているが、内訳はどうなっていますか。

A 前山事務局長(13): それぞれ別の業者に委託しており、ホームページが約8万円、EACONが約50万円となっています。

挙手による採決の結果、第 1 号議案は挙手多数で承認された。

第2号議案 役員選任に関する件

今年度は役員改選の年度であり、関根副会長から議案書に沿って新役員候補を紹介した。新会長として山田宏幸氏(30)、新副会長として増木洋介氏(30)、その他役員は留任としたい。常任委員は各期からの推薦を基に議案書のとおり新任・交代する。本案は4月の常任委員会で審議・承認されている。引き続き、新会長候補の山田氏と新副会長候補の増木氏についての推薦の辞があった。

菱沼会長: 山田さんは4年にわたり副会長として私と一緒に仕事をしてもらいました。それ以前から同窓会執行部を18年も続けていて同窓会の実情に通じています。その間非の打ちどころなく業務を動かしてきました。本職はお役人で物事を実務に落とししていく人です。満を持しての登場でこれからの時代の実務型同窓会のリーダーとしてふさわしい方だと思います。

田中(逗葉栄光同窓会 10): 菱沼さんに全て言っていただきました。山田さんは逗葉栄光同窓会などで日頃から付き合い合っていますが、抑え所がきめ細かい方で、十分皆様のご期待に添える方だと思います。自信をもって推薦します。

菱沼会長: 増木さんについては、先ほどEACON関係の回答をしていたようにITの専門家であり、EACON導入時から

携ってもらいました。EACONは、実は私が発案者で将来の電子名簿化を見据え、更にコミュニケーション機能もあればいいなということでスタートしました。コミュニケーション機能は使い勝手など不十分でしたが、増木さんのIT知識・技量を生かして整理を進めて頂けると期待しています。

挙手による採決の結果、第 2 号議案は挙手多数で承認された。

菱沼前会長に全員で労いの拍手を送った後、山田新会長より新任の挨拶があった。

山田新会長: 新会長に選任いただきました 30期の山田宏幸です。ご承認いただきありがとうございます。ある意味真面目に考えるととても受けきれない大任と思います。年明け位に菱沼前会長から打診があり、正直受けるべきかどうか迷いました。ご紹介いただいたように、私の同窓会活動は常任委員・事業部長・副会長と20年近くになります。菱沼さんから大幅に若輩になりますが、同窓会全体として次の世代に繋げていくという意味で引き受けることにしました。やるべきこと、やらなければならないことは、事業計画などの中で触れていきます。菱沼さんは4年間、“血の通う同窓会”ということでパワフルに活性化を図ってくださいました。70周年事業も継続しているので、菱沼さんにもう 1 期お願いしたいところですが、年々本業がお忙しくなる中、無理していらっしゃることをよく承知していたので引き受けようと決意しました。会員が一万人を超え、65年もの歴史ある大組織であり継続性も大事だと思います。ただ70周年という節目を迎え、先ほど校長先生もおっしゃっていたように変革の時でもあり、変えるものは変え、継承するものは継承するようになっていきたいと思います。任期の2年間ですが、“人を繋ぐ、人が繋がる同窓会”にしていきたいと思います。人を繋ぐ同窓会の仕掛け、支部・同期会などの人が繋がるための仕組みを縦軸・横軸と組み立てていきたいと思います。課題山積の中、微力ながら力いっぱい頑張っていますので、皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

第3号議案 2017 年度事業計画案承認に関する件

山田新会長から、議案書に基づき、今年度の事業計画について説明した。

本2017年度は、母校創立70周年事業への支援の総仕上げと、名簿についての検討が活動の軸となる。6月には新校舎に係るイベントを行い、さらに8月には募金委員会などと協力して大規模な創立70周年記念コンサートと記念パーティーを行う予定である。これらのイベントで70周年事業をより一層盛り上げ、今年度末までの募金活動に引き続き協力をしていく。2015年度の会則の改訂により、会務執行と審議

機能の明確化が図られた。今年度は、さらに機能強化し、同期会・支部のさらなる活性化、若手委員、幹事の発掘などを進め、母校創立70周年を機に、次代へ繋がる同窓会活動としていく。会の財政は、根本的な手法の見直しを検討するなど、将来に備えることが必要となる。現状分析を行うなどはしているものの、名簿のあり方も密接な関わりがあるため、本格的な議論に至っているとは言えず、名簿と併せ、本年度の課題としたい。具体的には、会員データ管理、名簿印刷、EACONの活用と機能改善及び普及促進、停滞する会費納入率と会費徴収方法などを、今後の同窓会運営の最重要テーマとして検討する。可能なものから解決、改善し、進むべき方向性を探っていきたい。

1 総務部

- (1) 会員名簿の今後のあり方について、昨年度組成した「同窓会名簿検討特別委員会」で議論し、よりよい“Web 版名簿”の実現を目指す。
- (2) 同窓会諸活動での実働人員を増強するため、改訂会則で新設した「幹事」の増員を始め、様々な方策を検討する。
- (3) 実働人員が少ない中、増加する活動に対応するため、事務局との連携を密にし、効率的な会務遂行ができるよう更に工夫していく。
- (4) イエズス会校同窓会連絡会(JJHAF)運営委員会を、11月4日、本同窓会主催で開催する。

2 財務部

- (1) 納入率改善のため、各種イベントの参加者で会費が未納である会員について積極的に納付をお願いし、納入率50%超を目指していく。
- (2) 会費納入方法や他の収入源の検討、各種イベントの実施や名簿のあり方等を勘案し、引き続き中長期的な視点に立った、より健全な収支モデルを検討していく。

3 広報部

- (1) 10月と4月に会報を発行する。
- (2) 同窓会ホームページの運営を引き続き行っていく。
- (3) EACONの運用に関しては SNS との比較、使い分けについて同窓会員の意見を伺うべくアンケート調査を行う。

4 事業部

例年の実施事業に加え、引き続き母校創立70周年事業を支援・協力していく。事業運営を今後も持続可能とするよう、仕組みづくりをしていく。

(1) 同窓会員交流事業

- ア 栄光祭においてOBの部屋「アラムナイ」を設置する。
- イ 第9回OBフォーラムを、6月4日に栄光学園で開催する。
- ウ 三春勝正氏(6)、大島弘尚氏(14)を中心に、年4回の歴史文学散歩を行う。

(2) 在校生支援事業

本年度は27期と37期が担当し、高1ゼミ及び公開ゼミへの

講師の派遣を行う。

(3) 「栄光学園創立70周年事業」関連事業

上記の事業メニューをベースとし、募金委員会と連携した募金活動や、記念イベント(8月6日のコンサート及び記念パーティー)の実施に協力していく。

5 活動サポート部

各活動の核として活躍する人材及び世代に応じた対応方法や手法を整え、活動をサポートしていく。

(1) 各期活動支援

ア 各期委員の活動を促進し、各期活動への補助を行うなどして支援する。

イ 各期幹事とのコミュニケーションを活発化し、活動実績を同窓会に報告するよう促す。

ウ 活動が停滞気味の『働き盛り・子育て世代(30～40歳代)』を重点的に支援する。

(2) 支部活動支援

新規支部の立ち上げ、活動の継続性が弱い支部の再活性化を図る。

(3) その他活動グループ支援

昨年に続き、『オール栄光ゴルフコンペ』を後援する。

(4) 社会貢献活動支援

引き続き、東ティモールイエズス会校への支援などの社会貢献活動を行っていく。その他今年度の役員等の執行体制は議案書に記載したのでご参照下さい。

質疑

Q 石田(51):先ほどの事業報告の質疑でEACONへの不満が出てきましたが、私としては住所変更もすぐ出来て不満はありません。SNS機能について検討するとありましたが、どう進めようとしていますか。

A 増木新副会長:EACONの役割について、同窓会としては検討中ですが、個人的には名簿に特化し、コミュニケーションはフェイスブックなどデファクトスタンダードのものを使うのが良いと考えています。元々EACONは汎用アプリなので、栄光同窓会だけが機能改善などを提案しても簡単には実現し難い状況です。

A 山田新会長:補足ですが、個人情報保護法の改訂もあり、近い将来紙の名簿は無くならざるを得ないと思っています。一方コミュニケーションツールについては、幅広い会員年齢を考えると一気に Facebook 等に移行していいのか疑問でもあります。軟着陸するためにもいろいろご意見を頂ければと思います。

Q 田中(逗葉):東ティモールイエズス会校とはどういうもので、なぜ社会貢献活動の一つとして取り上げているのか説明をお願いします。

A 関根副会長:東ティモールはアジアで一番新しい国で、そこにイエズス会が学校を設立しています。昨年度は、栄光

の校舎建て替えて更新することになった古い机・椅子を寄贈し、同窓会としてはその送料の一部の支援を行いました。

C 田中(逗葉):説明ありがとうございます。社会貢献活動は支部・個人だけでなく、同窓会としてもやっていけたらと思います。

Q 杉浦(16):会費納入率が減少傾向にあるとのことですが、改善のための具体策について説明をお願いします。

A 近藤財務部長:即効性のある方策は難しいですが、昨年度は、支部会や同期会で参加者の納入状況を説明したりしました。今後については、納入方法について、現状でいいのか、あるいは永久会費なども視野に入れるのかなど検討していきたいと思います。

Q 杉浦(16):他の収入源の検討とあるが、具体的にはどのようなものを考えていますか。

A 近藤財務部長:アラムナイに広告を載せるなどを検討しています。

Q 井上(23):私たちが在学していた頃は、外国人神父等多様な方々と接することが出来ました。今は望月先生の話にもあったように、イエズス会神父はいなくなり、多様性が失われてきていると思います。簡単ではないと思いますが回復させる方策を検討していただきたいと思います。

A 山田新会長:私は30期生なので、在学当時まだフォス先生や外国人神父様方もいらっしゃいましたが、今では修道院も使われなくなり、神父様もいらっしゃらなくなりました。このことは、社会の流れなので止められないと思いますが、一方、一万人の多様な会員がいる同窓会として、在校生・学園に対して多様性確保を含めて関わっていきけるよう働きかけていきたいと思います。皆様のご意見をいただき、又同窓会活動に参加いただきながら進められればと思っていますのでご協力をよろしくをお願いします。

挙手による採決の結果、第3号議案は賛成多数で承認された。

第4号議案 2017年度収支予算案承認に関する件

近藤財務部長から、今年度の予算案に関し、議案書に基づき説明した。

・収入については、会費納入率向上を見込んで、昨年度より若干増加させた。

・支出は、昨年度までは多めに計上していたが、当期は前期実績をベースに支出増が見込まれるOBフォーラム等の経費を上積みした。

・1万円の黒字予算だが、今後のためにも会費納入率の改善を図りたく、委員各位のご協力をお願いしたい。

挙手による採決の結果、第4号議案は賛成多数で承認された。

7 その他

(1) 一時在籍者・入会会員の紹介

青木総務部長から、4月度常任委員会で入会が承認された37期在籍の東條俊彦氏を紹介した。東條氏は高校3年1学期まで栄光学園に在籍し、その後音楽活動に専心するため退校した。今年37期が担当するOBゼミ講師に是非参加して欲しいということもあり、望月校長先生を始め同期の方々の推薦を得て同窓会入会を申し込まれた。同期の河原常任委員(37)から、「東條さんは栄光入学以来同期の中心的人物であったし、現在でもそうであるので、OBゼミにもぜひ参加してもらいたいと思い推薦したものです。」との補足紹介があった。

(2) 新規登録支部の紹介

島崎活動サポート部長から、本年4月の常任委員会で支部として承認された、“北海道栄光会”を紹介した。北海道栄光会は7年前に設立総会を開催したが、今年第2回総会を開催して正式支部として申請されたもので、今後は定期的開催を目指している。活動サポート部としては、他の地区栄光会についても設立を支援していきたいと考えている。

(3) 同窓会名簿特別委員会報告

青木総務部長から、前期から継続している同窓会名簿特別委員会の報告を行った。既にアラムナイで報告しているが、紙の名簿相当の機能をEACON上で実現すべく業者と改善を進めている。今までに名簿検索画面から検索条件で絞り込むと、氏名・期別・部活動・大学名・勤務先名・住所1が一覧表示出来るようになった。一桁の期の絞り込みが上手く出来ないとか、本人はリストアップされないなどの要改善点も明らかになった。業者に改善依頼中だが、他のユーザーとの調整も必要とのこと、まだ実現されていない。是非、試用していただき、ご意見があれば同窓会事務局まで申し出ていただきたい。

質疑

Q 内山(60):EACONを名簿に特化する方向と伺いましたので、他のSNSとの連携、アカウントの表示などは出来ませんか。

A 増木新副会長:表示項目の追加は簡単にできますが、問題はしっかりとデータを入れてくれるかという点です。データを最新に管理するのは会員一人一人の責任です。また、表示レベルについては、友達・グループメンバーなどのレベル分けを行うなどの工夫も必要と思います。使い勝手など、いろいろなご意見をいただきながら検討していきたいと思えます。

Q 奥山(11):会員全員がEACONのデータを更新できると

は限りません。期委員又は常任委員にパスワードを公開して、その人たちが責任をもって更新するという事に出来ませんか。

A 増木新副会長:情報セキュリティの問題を含むので、対象者全員が合意する方法である必要があります。例えば期中で皆さんが合意して運用することも考えられます。

C 齋藤(7):EACONの改善を進めているようですが、PRが不足していると思います。OBフォーラム・コンサートなどは紙のチラシ配布等行っています。EACONについても、分かり易くシンプルにPRしていかないと、なかなか浸透しないと思います。

(4) 各種イベント紹介

増木事業部長から、今年度のイベント、6月4日OBフォーラム(隈研吾塾)・8月6日70周年記念コンサート・記念パーティーの再紹介と参加要請が行われた。

閉会の辞 閉会に当たり、今回初出席の加納委員(65)から初出席の感想があった。「皆様が仕事をしながら同窓会についても熱心にやられているのを見て、さすが栄光の卒業生 だなと尊敬する眼差しで見えていました。」

花井議長から「これもちまして、2017 年度栄光学園同窓会定期総会を閉会します」との宣言があり、総会を閉会した。

2017年度OBゼミ・放課後ゼミ予定(10月以降)

事業部

2017年度OBゼミ・放課後ゼミは27期と37期の卒業生が講師を務めます。

放課後ゼミは15:40より、新校舎北棟2階の第2予備教室で行なわれます。卒業生、保護者など学園関係の方の参加歓迎!!! です。

可能なら事前に栄光学園OBゼミ ob_semi@ekh.jp または 栄光学園 0467-46-7711 (OBゼミ担当 堀 真人先生)までご連絡ください。ご来校の際は、正門左手の受付で入構手続きをお済ませ下さい。

10月4日 森崎龍郎 (37期)

幌加内町立幌加内診療所所長
北海道のへき地で医者をするということ
～診療所での仕事とそこでの生活～

10月11日 松村武人 (27期)

財務省 (現在、独立行政法人 国立印刷局理事長)
財務省ってどんなことしてるの？

10月25日 丸澤 滋 (27期)

株式会社 小学館 取締役
コミックの課題と取り組み
出版社・編集者は本当に必要なのか

11月8日 村田恭夫 (27期)

東京ガス株式会社 エネルギーソリューション技術部
暮らし、街、産業を支える『ガス屋さん』の仕事 効率よく、かしこくエネルギーを使う社会を目指して

11月15日 関根功治 (27期)

三菱電機株式会社鎌倉製作所 主管技師長
人工衛星ビジネスと海外展開

11月22日 菊池裕明 (27期)

ぶらっとホーム(株)(パナソニック)
第4次産業革命に飛び込もう～IoTベンチャーの挑戦～

11月29日 野村雅俊 (37期)

朝日新聞社 デジタル編集部次長
メディア企業の仕事と社会における役割-記者の仕事、新聞やデジタルニュースの取り組み

1月10日 矢野博巳 (27期)

世界貿易機関(WTO) ルール部参事官(スイス・ジュネーブ)
ジュネーブから見た日本 (WTOを中心に)

1月17日 増成秀樹 (37期)

宮古島徳州会病院
離島医療の現場(宮古島:Dr.コト一篇)

1月24日 佐野祥一朗 (37期)

NTTデータ
システムインテグレータの仕事
-インターネット、モバイル、AI... 技術の波を越えて-

1月31日 山脇啓造 (27期)

明治大学国際日本学部教授
多文化共生社会に向けて

2月7日 松野健太郎 (37期)

三井不動産株式会社ソリューションパートナー本部
法人ソリューション部 ソリューション営業グループ長
企業経営と不動産戦略
-複数の専門分野を持つことの大切さ-

2月14日 本庄竜介 (37期) *放課後ゼミ無し

グリーンコア株式会社代表取締役、公益財団法人本庄国際奨学財団評議員、学校法人インターナショナルスクール・オブ・アジア 軽井沢評議員、一般社団法人ビヨンド トゥモロー理事、Endad-Honjo Ideal Girls School (バングラディッシュ)理事長
栄光学園入学時から今までの自分自身の人生を振り返って、その経緯・経験・人との出会いから得た教訓や反省を、高校1年生の生徒たちにわかりやすくアドバイスの一つとして伝えたい。

2月21日 青山直樹 (37期)

株式会社ニューオーダー 代表取締役
ソーシャルメディアによる生活変化
ーフェイスブック、ツイッター、インスタグラムが世の中に
与えた影響とは！？ー

2月28日 東條俊彦 (37期)

音楽関係
準備中

「学園通信」より

内山正樹 (9期)

1. 中3修学旅行

中3(68期)の京都への修学旅行が2月8日～10日に実施されました。CM作成、京都名産の製作体験、陶芸体験が課題でしたが、大沢優介君と加藤駿英君のレポートを紹介します。

「CM」作成

大沢優介 君

昨年まで班別行動の課題は壁新聞の作成を行っていましたが、今年から「CM作成」が新たな課題となりました。“中学生におすすめの修学旅行で行く京都(神社仏閣史跡編)”というテーマでCMを撮影すること。各班 1台iPadを貸し出し、撮影した画像・動画を材料に内蔵アプリMovieで30秒の広告を作りました。ここまで聞くと、楽そうじゃん…と思うかもしれませんが、実は撮影の前段階が大変だったんです。2016年10月4日、初めて班で集まりCMの構想を練りました。こんなに早い段階から準備が始まりました。10月25日CMの絵コンテを作成。絵コンテというのは、CMの内容や流れを10枚ほどの絵で説明するものことでCM作りには欠かせない作業です。締切ギリギリまで焦っている班がかなりあったのではないのでしょうか。11月8日各クラスで絵コンテ選手権のクラス予選を開催し、11月22日各クラスの精鋭たちによる本戦が小講堂で行われました。テレビで流れていそうなCMで勝負する真面目な班や、思わず笑ってしまうようなユーモア溢れる作品を作る班など様々でとても面白かったです。年が明けて2月4日、旅行まであと4日、iPadの使い方講習会。ここで初めて生徒の手にiPadが渡ります。そして修学旅行が始まり、1日目。2日目の班別行動の時間に予定していた撮影地に向かい、CMの材料を集め、夜は編集作業と一般の人が映らないタイミングを待ったり、思ったように撮影できず予定が押しやり、ハプニングはあったようです…。また、機械にはトラブルがつきもので、データが消えてしまい、夜遅くに旅館で撮影する羽目になってしまった班もありました。しかし、多くの班が旅行中に課題を終わらせることができましたよ

うで、その点は良かったかなと思います。3月11日にCM上映会を行い、優秀作品が決定します。作品は栄光祭で上映する予定です。是非、68期の生徒の自信作を見に来てください!

B組クラス別行動

加藤駿英 君

B組のクラス別行動では、八つ橋作り体験をして、班別で嵐山に移動し、良彌というところで昼食を食べるというものがあった。クラス別行動の前日、僕らの調べ不足によって、宿から八つ橋体験をするところまでの移動に問題があることが発覚した。自分たちの想定していたバスが一本しか出ていなかったのだ。これによって、僕たちは4つのルートに分けて行くことにした。当日、ルートごとに出発して目的地に向かったのだが、また問題が発生した。一つのグループだけ一向に来ないのだ。予定の9時になっても来ず、結局5分ほど遅れてきた。遅れてきた人に聞いてみると、バスの系統を間違えてしまったそうだ。全員集まって、ようやく八つ橋作り体験を始めることができた。八つ橋作りは、生地を作るところから始めた。生地には米粉、餅粉、砂糖、水を入れて、その生地を蒸し、蒸し終わったら生地にココアパウダーやニッキなどを入れると生地が完成する。その後、生地を正方形に切り、こしあんなどを中に入れて、たたんで八つ橋ができた。思っていたよりも簡単にきれいに八つ橋ができたので楽しかった。見た感じ周りの人も割ときれいにできていたと思う。八つ橋作りを終え、班ごとに嵐山に向かった。嵐山に着くと雪が降っていて、とてもきれいな風景を楽しむことができた。先ほどのこともあって、移動を心配していたが、全員遅刻することなく良彌に来てくれたので一安心した。着いてからは少し時間があったので、各自お土産を買ったりしていた。昼食では、湯葉や豆腐などのさっぱりとしたものが多く、とてもおいしかった。僕らのクラス別行動ではハプニングも多かったが、とても楽しかった。

2. 71期入学式

新校舎の1期生である71期の入学式が4月3日に挙行されました。69期服部泰河君の「在校生代表の言葉」を紹介します。

71期生の皆さん、並びにご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。在校生一同、心から歓迎いたします。

新入生の皆さんは、新しいスタートへの希望に胸を膨らませていますか?正直、不安な人もいるかもしれません。でも、大丈夫です。僕も2年前、凄く不安でした。

さて、不安があっても大丈夫ということをご皆さんにわかっていただいたところで、皆さんへ、僕が感じる栄光の、魅力的なところを紹介していきます。

まず、一つ目に僕が魅力を感じているのは、新校舎です。

今年度から、僕たちの学ぶ校舎が新しくなります。栄光がこの地に降り立って53年たちましたが、初めての改築です。この校舎は栄光学園の卒業生が、設計なさいました。僕は、先だって作られた西棟を使って、落ち着いた木のぬくもりを感じることができました。新校舎でもそのぬくもりを感じることができると思うと、楽しみでうずうずしています。一緒に喜びをかみしめて大事に使いましょう！

二つ目は、他の学校にはなかなかない中間体操です。新たな校庭では、栄光の大きな特徴である中間体操が、毎日あります。2時間目と3時間目の間の15分休みになると、生徒はそろって上半身裸でラジオ体操第2をします。考えただけでもシュールですね。しかし、中間体操は雨や雪が降らない限り、必ず行われます。毎日です。と言っても実は、昨年度は新校舎の工事の影響で中間体操をするスペースが少なく、週3回でした。しかし、今年度からは毎日に戻ります。僕たちも正直大変ですが、実際、2年間中間体操をしていると、その15分間が特別な時間にも感じますよ(笑)。中間体操を楽しむ気持ちでやってみてください。

そして三つ目、僕が何より魅力を感じているのはこの学校の先生たちの個性豊かで、愛情深いところです。その様子は、学習面でも、その他の学校生活でも感じる事が出来ます。学習面では、先生たちは個性的で面白い授業をしてくださいます。例えば僕が昨年度受けた数学の授業では、問題を解いて正解するとポイントがもらえて、景品こそはもらえませんが、友達と競い合ったり、分からないところを教え合ったりしました。理科の授業では生徒一人一人が考えて作成した秤を、なんと定期試験で使いました。歴史の授業では、先生の説明をクラスの皆で静かに聞いたご褒美のような形で、先生が板書をしている間は自由時間になっていました。このように、栄光学園には自由度の高い授業が多いので皆さんもきっと楽しめると思います。

3. 第70回栄光祭

5月13日～14日に学園最大のイベントである栄光祭が新校舎で開催されました。実行委員長である67期関根英悟君の感想を紹介します。

「みんなありがとう！」

栄光祭を終えて今一番伝えたい言葉です。今まで一緒に栄光祭を作り上げてきて僕を支えてくれた幹部のみんな、栄光祭の成功に向けた皆さんの準備をしてくれてくれた実行委員のみんな、それぞれの催し物で栄光祭を盛り上げてくれた栄光生のみんな、本当にありがとう！

そもそも、僕が実行委員長になったのは、先輩方が栄光祭を作り上げていく姿を見てきて、自分も先輩方のように最高の栄光祭を作りたい！と思ったからでした。自分が実行委員長になった直後は、先輩方の栄光祭を超える最

高の栄光祭を作ろうと意気込んでいました。しかし、いざ自分になってみると先輩方が作ってきたものは本当に偉大で、それを超えることは簡単なことじゃなくて、途中で何度も挫けそうになりました。でも、フィナーレで先輩方が見た景色を見てみたいと思い、頑張りました。いざ、自分が実行委員長として迎えた栄光祭当日は想像以上でした。たくさんのお客さんが僕たちが作り上げた栄光祭に来てくださり、楽しんでいただくことができて本当にうれしかったです。そして、フィナーレでステージから見た景色は一生忘れることができません。

僕たちが幹部になったのは去年の11月、第70回栄光祭の準備が始まってから半年が経ちました。冬休みまでは幹部でひたすら話し合いをして、冬休みが明けたら実行委員会が発足して準備が始まりました。だけど、校舎に入ってみないとできないこともあって…、本格的に準備が始まったのは春休みからのような気がします。この半年間は一瞬で過ぎていって、でも本当に中身の濃い楽しかった半年間でした。

今年の栄光祭は新校舎で初めての栄光祭でした。4月まで新校舎に自由に入ることはできず、分からないこともたくさんあり、春休みまでは毎日のように図面と向き合っていた気がします。装飾などについても制限が厳しくなってしまう、様々な面で制約もかかってしまいました。しかし、それぞれの催し物が知恵を絞って、その中でもできることを探し、より良いものにしようとする姿を見て、栄光生は本当にすごいなと思いました。

そして、今年の栄光祭では大きく2つの事を心がけて準備をしました。一つ目は「新校舎を活かした栄光祭」です。せっかく新校舎で初めての栄光祭なのだから、その特徴を生かしたものを作りたいと思いました。もう一つは「新校舎の制約に負けない栄光祭」です。新校舎という点にはデメリットもあり、装飾や設備利用などにたくさんの制約がありました。でも、その制約によってやりたいことをあきらめるのではなく、その中でどのように自分たちがやりたいことをするかを考えるようにしました。

しかし、栄光祭の直前になっても決まっていなかったことなどもあり、本番に間に合うのかといった不安もありました。また、新校舎で初の栄光祭なのに失敗したらどうしよう、来場者が少なかったらどうしよう、などといった不安やプレッシャーもありました。

でも、いざ本番を迎えてみたらその不安は杞憂でした。土曜日が雨だったこともあり、当日まで不安でしたが、結果的に2日間で15023人の方が栄光祭に来てくださり、本当に良かったです！そして、たくさんの方に今年の栄光祭は良かったということを書いていただけてうれしかったです。特に、「新校舎を活かした栄光祭でよかった」「新校舎での制約がありながら、上手に工夫していた」など、僕たちが心がけてきたことを感じていただけたのが本当にうれしかったです。

栄光生は半年間「新進気鋭」をスローガンに掲げて準備をしてきました。栄光生が作り上げた新進気鋭さを感じていた

だくことができ、文化祭という分野において新しい風を吹かせることができたと思います。

今まで一緒に栄光祭を作り上げてきて僕を支えてくれた幹部のみんな、それぞれが実行委員や催し物などで栄光祭を盛り上げてくれた栄光生のみんな、僕たちを支えサポートしてくださった教職員の方々、僕たちを支えてくださった保護者の皆様。本当にたくさんの方々に支えられて第70回栄光祭を成功させることができました。

第70回栄光祭に関わってくださったすべての皆様、本当にありがとうございました！

4. 科学の甲子園全国大会

全号で紹介した県大会で6連覇を達成し出場した科学の甲子園全国大会ですが、3月につくば市で開催され、筆記協議第2位、総合順位5位入賞を果たしました。

ウィリアム・カーリー先生司祭叙階金祝ミサ・お祝いの会(2017年6月17日)上智大学金祝燦燦会主催

広報部

1962～1964年に栄光で教鞭をとられたウィリアム・カーリー先生が、去る3月17日に司祭叙階50年の金祝をお迎えになられたことをお祝いして、先生が学長を務められた上智大学の金祝燦燦会の主催でお祝いのミサと懇親会が開かれました。



上智大学クルトゥルハイム聖堂にてカーリー先生司式による金祝ミサ



上智大学「ソフィアンズクラブ」でお祝いの会

—栄光学園創立70周年にあたって— 創設者デッカー大佐と初代校長フォス神父

東海林 修 (2期)

今年には栄光学園が1947年に横須賀田浦に開校して70年の記念の年である。それを記念して新校舎の建設、記念コンサート、記念パーティーなど数々の行事が行われ、同窓会も多く記念行事に関わってきたが、その一つとして栄光学園の70年間の歴史の歩みを示すアーカイブスの資料の整備がある。その資料の一つとして横須賀米軍基地司令官B.W.デッカー大佐(当時、後に少将に昇進)の写真等が創立記念日の2017年6月21日に望月伸一郎校長に贈られた。(写真1)



(写真1)

1期生の澤田壽夫氏(上智大学名誉教授・弁護士・故人)は常々「フォス校長は初代校長であって栄光学園の真の創設者は第四代横須賀米軍基地司令官のデッカー大佐である」との考えを持っておられ、「デッカー大佐の功績に対する認識が学園内で非常に薄れていることはとても残念なことである。学園としても創設者デッカー大佐の功績を見える形で残すべきであり、デッカー大佐の遺品が栄光学園にひとつも無いのは残念なこと、70周年を機会に栄光のアーカイブスにデッカー大佐の記憶を残すべきである」と兼ねてから主張されていた。

デッカー大佐(写真2、注1)は日本の復興に最も必要なことは若者の教育であるという強い信念を持っておられ、それにはキリスト教を基盤とした教育が最も相応しいとの考えから、横須賀にいくつかの学校を建設するべく奔走されそれを実現されたのである。栄光学園もその一つであり、清泉女学院も長野から横須賀に進出してきた。栄光学園の場合は、デッカー大佐は「カトリックのイエズス会は中央組織がしっかりしていて指令も行き届いている」との信頼感から横須賀海軍基地のポズナンスキー神父に協力を求めたのだ。そ



(写真2)

ここで同神父はイエズス会のビター神父とフォス神父をデッカー大佐の許に連れて行ったのだが(注2)、学校建設の予定地として提示された田浦の水雷学校跡地の余りにも荒れ果てた現地を見た両神父は一旦は開校に危惧を抱いたようだった。しかしデッカー大佐は「直接資金の提供はできないが、できるだけの協力はするから」との提言に信頼して男子校の開校が決められた。イエズス会は米国留学から帰国して上智大学の新進気鋭の教授に内定していたフォス神父を初代校長に抜擢した。

デッカー大佐と言えば当時の栄光生には忘れられない思い出が一杯ある。

デッカー大佐はフォス校長に約束した協力のひとつとして栄光開設の資金の一助にと古くなった飛行艇を突然荒廃した敷地に送ってきた。解体して販売し資金の一助にとデッカー大佐からの贈り物である。また広い校庭をフォス校長が自由に走り回ったり、アメリカ海軍基地との往復、生徒の家庭訪問に使われたジープも大佐からのプレゼントだった。イエローペーパーと言えば今はサッカー用語であるが、当時は不要になったアメリカ海軍の暗号文の書かれた黄色のペーパーが大佐から大量に支給されて、その裏がテキストの印刷やテストの用紙として使われたことは未だに当時の栄光生の懐かしい語り草となっている。アメリカ海軍が学校に与えた有形無形援助は膨大なものだった。(注3)

以下澤田壽夫氏が『書斎の窓』のリレー連載に書かれた中からデッカー少将の横顔の一部をご紹介します。(注4)

デッカー少将(当時は大佐)が1946年から4年間横須賀のアメリカ海軍基地司令官として日本人々との親交を築きながら軍港都市横須賀を平和な民主都市として再生させるために力を尽くした足跡は大きい。

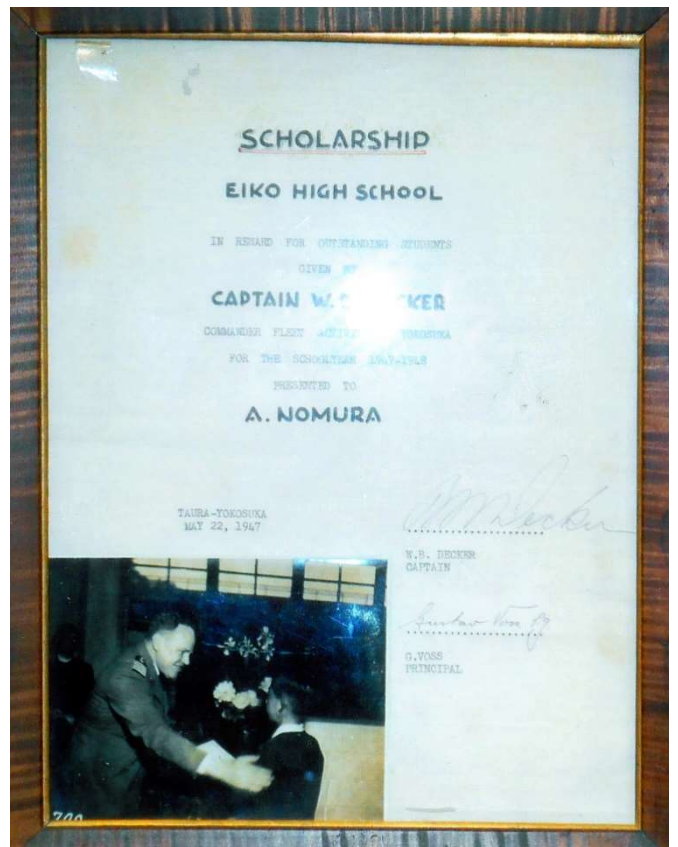
デッカー少将は海軍将校を多く輩出した家に生まれ、第一次世界大戦後4年目の1920年に海軍兵学校を卒業した。それから何隻もの軍艦に乗務してゆくが、その合間に一度

ならず母校兵学校で教育に当たったことは、後日日本で教育に熱意を燃やしたことにつながるように思われる。

デッカー少将はみじめな敗戦にあえぐ日本に、横須賀アメリカ海軍基地司令官として着任したが、いわば雲の上の人として基地とそれの位置する都市の統治に終始することで職務を果たし得たがそうはしなかった。大佐が次々に実現していったことは、戦勝国つまり占領軍の司令官という強力な地位によるものではあったが、それにとどまらない。彼はまず駐留アメリカ軍人の厳格な綱紀維持をはかって、それに成功するなり、次に手がけた水道の大々的修理は基地内の水圧に十分なのは一日三時間だけで、基地貯水池がすぐに空になるという状況の改善に急を要したからだったが、それは市民の水確保にもつながった。

ハエ、カ、ノミなどを退治するためのDDTの大々的散布も市民の衛生状態改善に貢献した。そのあとは、公立学校を訪問して一驚した不衛生なトイレの改造というふうに、大佐の打つ手は、だんだんと彼個人の発想、努力による市民そして日本との親善を目指す行為へと広がっていった。

荒れ果てた旧海軍の病院を一般市民の病院として再生させ、十三ヶ所の病院の厨房その他の施設を改善した。父母と教師の会の設立援助や子供たちのための運動場作りなどを通して夫人たちとのあたたかい交流が実現し、新生横須賀婦人会による感謝の大集會が開催されるようになる。いくつもの学校の援助をしたが、いつまでも残る事業としては、長野からの清泉女学院の進出の援助、そして栄光学園



(写真3)

の創立がある。アメリカでの男子教育の伝統があるイエズス会に作業を依頼して1947年5月栄光学園開校式にこぎつけた。開校式でデッカー大佐から1期の野村篤氏に奨学金第1号が贈られた。(写真3 野村氏提供)

デッカー大佐の日本との親善は日本の中央に拡がり、吉田茂首相を始め、東京からの重要な官僚、実業家を招く大宴会なども開かれたり学校の儀式に招かれてアメリカ国歌の演奏を聴くや、次に日本国歌君が代を歌うように依頼したり、他界も近づいた偉大な日本の長老提督米内光政海軍大将をあたたかく見舞うなど、日本の人々の琴線に触れる振る舞いが続き、それだからこそ、市会がデッカー少将の留任嘆願をマッカーサー元帥に送ったり、「どうかあなたが海軍の軍籍を離れて日本市民になり、市長候補になって欲しいです」と懇願されるまでになった。今も横須賀中央公園に見事な銅像が残る。一人一人の善意と思いやりの積み重ねが二つの国を結ぶ。

参考文献:

注1:『黒船の再来』14頁 2011年5月1日 横須賀学の会
注2:同上 121頁、注3:『デッカーさんと出会った人びと』
「海軍暗号紙と飛行艇」2012年11月17日横須賀学の会
注4:『書斎の窓』No.624 21頁 2013年5月1日 有斐閣

OB便り

離嶼沓徊

池添博彦 (8期)

沖縄は本島の他に多くの島から成る。那覇から離れた地にある宮古、石垣、西表などは先島諸島と呼ばれ、更に石垣、西表とその周辺の島々は八重山諸島の名が付けられている。

沖縄は古くは阿児奈波と呼ばれ、15世紀に統一王朝が成立した。その後琉球と呼ぶ独立した王国となった。琉球は中国と日本に朝貢していたが、島津藩が琉球の砂糖を独占するため17世紀初めより勢力を伸ばし、1872年(M5)に琉球藩を設置した。1879年(M12)に沖縄県と改称され、琉球王国は日本に併合された。

沖縄は本土と距離があるため、文化や慣習にかなり差がある。言語上では、本土の大和語と奄美諸島、沖縄本島及び先島諸島の各言語を各々独立した言語と分類したり、本土沖縄の言葉を別々に区分したりしている。

沖縄県と言っても、沖縄本島の方言と先島方言は著しい差があるので、同一グループに纏めるのは、かなり無理と思われる。

与那国島を訪ねて

与那国は日本列島の一番西に在り、台湾から110km、那覇より510kmと台湾に近い島である。東京からは1900kmも離れている。戦前は台湾との交流がかなりあり、生活物資はほとんど台湾から運ばれていた。

石垣より130kmで、船は4時間かけて島の西にある久部良港に着く。横に長い形の島で東西10km、南北5~7kmの小さな島である。

島の中央部にはいくつかの山があり、集落は海沿いに西端の久部良(くぶら)、北側の祖納(そない)、と南側に比川の三つである。人口は1500人余で祖納が一番多く、町役場や診療所はここにある。

島を一周する道路と祖納から山を越して比川に向かう道が主要道路である。主な産業は砂糖黍、米そして黒牛である。米は二毛作で、月半ばに小学生が田植えをしていた。

東端の東崎(あがりざき)は一面の草原で、小型の与那国馬が放牧されている。縄文期に中国から渡来した馬で、在来種としては日本で一番小さい。天然記念物に指定されており、一時はかなり減ったが、今は150頭ほどに増えている。

崖の続く岬の北側にはアダンが一面に生えている。大型のアロエのような植物で、多肉性の棘のある葉の中に、丸くて堅い実がなっている。若芽は食用にされ、実は椰子蟹が好んで食べにくる。

与那国の人々は島の名をドウナンと呼んでいる。石垣ではユノオンといい、おもろそうしにはイニヤクニと記されている。

祖納から島を横切って比内に行く途中に、人解田(とうぐだ)と呼ばれる田があった。昔、この田に住民を集め、他に入りきらない人々は人口制限の対象とされて、処分されたと伝えられている。

久部良港の高台にクブラバリと名付けた大岩の裂目がある。長さ20m、幅2~3m、深さは7~8mある。江戸時代、人減らしのために、妊婦を集めて岩の裂目を飛び越えさせた。転落死するものが多く、人減らしに用いられていた。

先島諸島では明治35年(1902)まで人頭税制度が残っており、15歳以上の住民は多額の税を払わなければならなかった。

東崎の南側は比川まで崖続きで立神岩、軍艦岩と名付けられた奇岩が海中に聳えている。立神岩は太めの柱状岩である。軍艦岩はサンニヌ展望台から見下ろす海辺にあり、一軍の大岩の塊が大船の様に見える。板状の岩層の重なりが、美しい縞状の筋目模様となっている

新鼻近くの海中には、海底遺跡と称される構造物がある。ダイバーの間では有名なポイントとなっており、古代の神殿などと言われて入る。平坦な台上の岩の並びに、垂直な壁に沿って幅の広い通路状の隙間が伸び、段状の階段とも思

える形状岩が認められる。

確かに一見大建築物のようにも思えるが、付近の崖を観察すると、板状の岩石が厚く積み重なる構造層をなしている。風化した岩は平らな面に壊れ易く、人が手を加えたものと見間違うのも不思議でない。

アイルランドのアラン諸島のイニシュモアは岩だらけの小島で、崖下の平らな岩に真四角に切り取ったような大脇がみられた。人工的なプールでも造ったのかと思ったが、岩層の節理に沿って、自然に矩形に陥落したものであった。自然はともすると、人工物と見違えるような形状物を示すことがあるようだ。

比川は人口百人ほどの小村で、カタブル浜や比川浜の白い砂浜が広がっている。浜辺の山の麓には、TVドラマの舞台となったDr.コトの診療所がある。屋根の上にコト診療所の旗が掲げてあり、建物の入口には志木那診療所と書かれてある。西崎に至る海岸沿いの路は、コトが自転車で行くシーンを撮った所で、隆起した珊瑚礁と草原に馬や黒牛が放牧されている。

因みにコトのモデルとなった医者は、鹿児島島の西にある甕島南端の小村、手打の診療所に勤めている。都会から移って僻地医療を志しており、現在でも若い研修医が彼を慕って訪れて来る。手打は森進一の母親の生地で、村はずれに「おふくろさん」の歌が流れる歌碑がある。

車の通らない海岸の舗装路を陽差を浴びながら歩いて行くと、浸食された灰色の石灰岩の間に、斃死した馬の骨が一面分、白々と残っていた。岩と草原と人気のない海沿いの路は、昨年訪れた大東島の路とよく似ていることに気がついた。

久部良のナーマ浜の西端に西崎(いりざき)がある。日本最西端の碑が建っていて、晴れた日は台湾が認められる。

クブラバリの近くに製塩所の跡が残っている。かなり大規模な施設であったが、今は錆びた鉄骨の林と、壊れた屋根だけがある。環状の回廊になっており、海水を流下させながら風を用いて濃縮していたらしい。近年は製塩場が各地にあり、特に離島に多いが、作るのに時間を要するのと天候に左右されるので、雨の多い処では向いていない。



池添さん近影

島にはクバの木が多い。クバはビロウの方言名であり、椰子科の棕櫚に似た木で、葉は籠や団扇などの生活具にされている。

祖納は与那国に中心地で大半の人がここに住んでいる。ナンタ浜に面して港があり、集落のはずれの海沿いに、浦野墓場が広がっている。大型の亀甲墓が連なっており、測ってみると広さが7x15mもあった。最大の墓には邸宅と見違えるもので、高い屏に大門があり、庭を備えた十坪程の廟が建っている。扉の中は棺を納める部屋で、入り口わきには墓参の人が憩えるように、長椅子と卓が設けてあった。

亡くなって7年経つと洗骨する習慣がある。この頃になると体は骨だけになるので、骨をきれいにし、改めて墓に埋葬する。洗骨に用いるために、アルコール度数60の「ドゥナン」焼酎が醸造されている。

通常焼酎はアルコール30度位までしか認可されていないが、与那国島では特別な用途として例外的に認められている。勿論今では飲用される量の方が多い。

村の後方は70~80mの崖が続く高台になっている。崖の前面は風蝕によって大きく割られており、ティンダハナタと呼ばれている。200mも続く半ドーム状の洞で、ここから祖納部落が一望できる。

ティンダハナタには、16世紀末に与那国を統率した女性の英傑サン・アイ・イソドの休処や、久米島より漂着した女性と犬が暮らした洞窟がある。風蝕洞の上部には草原が広がり、黒牛の放牧地としてヌックイタと呼ばれている。

祖納の南に位置する宇良部岳(231m)の麓に、アヤミハビル館がある。アヤミハビルは綾模様の蝶の意で、与那国蚕の地方名である。世界最大の蛾で、幅が20数cmになり、ゆったりと飛ぶ姿は鳥のように見える。仲間のヤママユ蛾はアジアに広く分布し、同種は台湾や中国にも生存している。

アヤミハビル館では卵を飼育して羽化までの変化を見せている。3月~4月が羽化期であり、ちょうど蛹から孵った蛾が木の枝で羽を広げていた。ここでは与那国の動植物を集めて展示しているが、離島のため、固有種の昆虫や植物が多くある。

島の野草としてボタンボウフウがある。葉が四裂したクローバー状になっており、茎葉ともに柔らかい。最近これに抗酸化成分が含まれていることが解り、資生堂が栽培を奨励して、その畑が広がっている。長命草と名づけて、美容や薬用効果を謳って商品化している。草地に生えているこの草を摘んで、麺と共に茹でて食べてみたが、食感もよく、ハーブの様な香りがして、菜としてもいけると思った。

島の周りは黒潮が流れる岩場が多く、鮪、鯉、カジキの漁場になっており、刺身か蒲鉾が美味である。

沖縄や先島諸島は台風の通り路である。2015年の春は秒速81mの大風を記録し、立木は倒れ、家々の屋根は壊

れて大きな被害が出た。

村の小型バスは風に飛ばされて壊れたために、村では6人乗りの車を使って三つの集落を巡っていた。

バスは無料であるが、いつも2、3人しか乗っておらず、私一人の時も多かった。以前も風速73mの台風に襲われたそうである。風速は30mでもかなり強く、40mを超える風は滅多に無いので、70～80mの強い風はどの位激しいのか想像もできない。

祖納の高台に与那国伝統工芸館がある。島に伝わる織物作りを実演して見せており、クバの葉や蓴麻(いらくさ)の織物を染色して布を織っていた。

東崎の近くに風力発電の大型風車があるが、回転翼が台風のために破損しており、修理中である。その近くに17世紀に設けられた遠見番所跡がある。

今は石垣しか残っていないが、グテイクチテイと呼ばれる番所で、当時は3人の番人が駐在しており、船が来ると早馬を走らせて「ンネー(船々)」と叫んで村主に報せた。

与那国は我国の西端で、中国とは尖閣諸島問題で緊張関係にあるため、国境防衛の目的で、2016年の春に150人余りの自衛隊員が本土から移駐してきた。隊員宿舎や職務棟、発電所、備品庫および通信装置などの付属施設が短期間で建設されるため、港には多くの資材が運び込まれ、丘の上にはレーダーサイトや大型の建築物、塔などが造設されていた。

人口1500人の小島にとって一割の人口増は大きな変化であり、食事や酒を提供する店や、日用品、娯楽施設などが必要になってくる。そのため建設関連の人々が急増しており、旅館や民宿はどこも満杯状態だった。島を訪れる人は少ないだろうと思っていた私は、宿捜しに一苦労してしまった。

3月でも気温は25度になり、極寒の北海道とは異なり、半ズボンとTシャツで過ごせる陽気であった。

与那国には飛行機も石垣から飛んでいるが、乗客数が少ないので専らフェリーが利用されている。フェリーは海が荒れると欠航となるし、一週間に2往復しかないの、余り便利でない。

紫金花の海を泳ぐ 蘭州近況(2016年9月)

大川 豊 (14期)

2016年新学年

中国では秋が入学の季節です。蘭州大学では今年の新学年は8月29日から始まりました。

新入生の登録も早々に行われ、その週には軍事訓練が



2016新学年



新入生の軍事訓練

始まりました。今年の日本語科の新入生は1クラス25名で、そのうちなんと男性が13名でした。男子学生が過半数を超えるのは初めての経験です。出身地域はバラバラですが、甘肅省が5名、なぜか天津市の出身者が4名も居りました。民族は満州族と土家族が各1名、他は全員漢族でした。

1年生の授業は軍事訓練を終えてから9月下旬に始まります。私も会話の授業を1コマ持っており、これまで2回ほど授業を行いました。まだ顔と名前がつながりません。

新入生たちはもちろんでしょうが、教えるこちらも今年ほどんな学生が来たのだろうと期待に胸がふくらみます。

海外へ出る学生たち

最近、学生たちがよく海外へ出るようになりました。3年生のクラスで夏休みに何をしたら聞いてみると、家族とヨーロッパ旅行が1名、アメリカで語学研修が1名、日本へ観光旅行が2名もいました。

10年前の学生たちが国内旅行すらほとんどしたことがなかったことを比べると、隔世の感があります。

蘭州大学では世界の諸大学と提携していて、交換留学の制度があります。奨学金が付いたものも若干ありますが、ほとんどは学費が免除で、渡航費、生活費を負担するものが普通です。期間は半年と1年ですので、2年生の後期学

期か3年生の前期学期に留学します。今年の3年生は11名がこの制度で留学しています。内訳は鳥取大学が5名、秋田大学が3名、埼玉大学が2名、信州大学が12名でした。

現在日本のどの大学でもこうした留学生を積極的に受け入れており、留学生の構成をみると中国、韓国が多数派を占めるようです。

留学生たちは、日中は授業に出席し、夜間や休日にアルバイトをして小遣いをかせぎます。そして、夏や冬の季節休暇に日本の各地を旅行して楽しんでいます。

留学が終わると、彼らは日本語にそれなりに自信を持って戻ってきますが、中には何の進歩も見られぬ学生もいて苦笑させられます。

現在、新3年生は2クラス25名ですが、11名が留学しており、6名と8名の少数クラスになってしまいました。授業をしていても何となく寂しげです。まあ、今学期は少数精鋭に懇切丁寧な授業を心がけようと思います。

紫金花の海を泳ぐ

甘粛省に金昌市という地級市があります。河西回廊の武威市と張掖市の境目にある小さな市で、人口も46万人ほどです。武威や張掖には行ったことがありますが、金昌市はいつも通り過ぎるだけで観光したことがありませんでした。

そこで、中秋節の連休を利用して、思い切って出かけてみました。



烏鞘嶺の近く、遠方に祁連山脈が

蘭州から金昌まで380kmあります。以前は蘭州から河西回廊へ出る時、祁連山脈南端の烏鞘嶺という3000mを超える峠を越えていましたが、最近では高速道路が整備され烏鞘嶺の下にトンネルが掘られ、所要時間がかなり短縮されるようになりました。それでも、蘭州からおおよそ5時間半、金昌のバス・ターミナルに16時ごろ着きました。

夕食を兼ねてホテルの周りを散歩してみました。金昌は落ち着いた地方都市で、高層ビルが少なく、空が広く見えます。町のあちこちに「紫金花生態都市」という看板やポスターが貼られていました。ホテルで聞くと、現在花が咲いているとのことなので、翌日の観光は紫金花の鑑賞に決めました。翌朝、タクシーで紫金花公園へ行きました。意外なことに



金川公園から市内を望む

公園は市内にありホテルからあまり離れていませんでした。

公園に入って驚きました。辺り一面紫金花ที่咲き誇り、紫の海に入ったようでした。広さは1キロ平方ほどでしょうか、東側に低い丘があるだけで、あとは平らな公園が、腰の高さほどに咲いた紫金花で埋め尽くされていました。少しして照り映えた紫に目が慣れてくると、花園の中いくつかの遊歩道が見えました。まだ朝早いせいか、参観者は数えるほどでした。遊歩道を歩いていると、遠方を歩いている参観者がまるで紫の海を泳いでいるように見えました。



金昌市のメイン・ストリート



紫金花



コスモスの花園

公園に咲いている紫金花はラベンダーではありません。中国名では柳葉馬鞭草と言ひ、日本でもバーベナの一種でヤナギハナガサと言うようです。それにしても1キロ平方もの広大な敷地にどうやって均等に群生させるのでしょうか。園丁の技量に感心するばかりです。

金昌市では紫金花公園の一带を生態花園として開発中です。

紫金花公園の西側の一画では花の博物館を建設中で、その敷地の広々とした庭園は可憐なコスモスで敷き詰められていました。金昌市が花園生態都市であるとは知りませんでした、ふらりと寄ってみて思わぬ幸運に恵まれました。



コスモス



柳葉馬鞭草



紫金花の名札

3期会(2017.4.11)報告

富山 英昌 (3期)

卒業時3期同窓会員は116名。高校卒業前に栄光を去り、その後同窓会への加入を希望した8名を加え、124名となった。

4月11日現在の名簿上の生存者は76名、今回参加希望者42名、実に55%の参加率となった。全員80歳以上の高齢者であり、予想外の参加希望者に感激しつつも、幹事一同突発のキャンセルを心配していた。当日は早朝からの雨、いくつかの路線で遅延が発生したが、開始想定時刻までには全員が着席。

藤村小弥太君の総合司会で、先ずフォス校長以下亡くなられた諸先生方並びに同期物故者48名に黙祷を捧げてから、広瀬徹也君の医師の立場から見た「日本人80歳男性の平均余命9年弱の過ごし方—迫り来る筋力低下などのフレイル状態をウォーキングや筋トレで克服」に全員が頷き、引き続き乾杯。

出席者の中で一番若い昭和12年4月1日生まれの佐藤晴美君が指名されて一言。「確かに一番若い、中学1年の時から背丈は高かったし、今でも高い方だと思っている。男性だけで、若いの年上だのと言い合っているだけでも全然面白くない。」

我々の時代は、外地からの引き上げや幼少期の呼吸器障害等の長期療養などで、学齢と年齢と一致しないことが多かったので、最年長者の調査は行わなかった。

これ以降は、意見のある人は自由に3分以内で発言することとし歓談の時間となった。

光岡誠治君から同期生に下記の謝意が表明された。

「私は2期生として入学したが、入学直後の8月に食用油で両親と姉の一家4人が重篤な食中毒を起こした。後遺症のため以後正常な歩行が困難となり、治療の結果1年後にようやく松葉杖による歩行が可能となった。1年遅れて3期生として中高6年間を過ごしたが、その間学校で嫌がらせやいじめといった類のことは一度も経験せず、楽しく過ごすことが出来た。3期生諸兄の支援にここで改めて感謝の意を表したい。」

また、鈴木勝久君からは、「老人と自動車事故について、興味本位ではなく、その実態に基づいた検討と対応が重要である。」という発言があった。

加瀬英明君から、「国際問題に関するコメント」があった。

例えば10代の昔に一足飛び、旧交を温め、近況を報告し合う楽しい時は瞬間に過ぎ、お開きの時刻となった。

富山英昌君閉会の辞をお願いします。

我々に残された平均余命は9年弱、それを全うする道程は平坦ではないとのこと。ある会合で聞いた「18歳と81歳の違い」と言う話を披露して閉会の辞に代えさせて戴いた。

*道路を暴走するのが18歳、道路を逆走するのが81歳

*自分を探しているのが18歳、皆が自分を探しているのが81歳

*東京オリンピックに出たいと思うのが18歳、それまで生きたいと思うのが81歳

「皆さん、頑張って先ず平均余命を全うしよう！」

続いて、金窪周作君指揮により「Where Hillocks Shine」並びに「千里の波濤」を斉唱。

最後に矢嶋洋昭君の先導で、「フレーフレー栄光!!!」と全員大声で唱和した。



三期会 (2017.4.11)

5期同期会

天野 正（5期）

平成29(2017)年の同期会を、4月1日(土)14:00～横浜銀行「横浜シティクラブ」で開いた。会場は例年通り服部和男くんのお世話になった。

5期生は昭和32(1957)年3月卒業で今年が卒業後60年の記念の年に当たる。

5期同期会は当日現在の会員70名。昭和32年3月卒業生112名に卒業までに他校へ転校したなどの仲間の有志6名が加わり118名が母体になっているが、この60年間に逝去者41名、住所不明や連絡不要という者7名を欠いている。

開催日1週間前の出欠予定者は43名だったが、この歳になるといろいろなことがあるもので、7名が体調不良などで出席取りやめ、37名での同期会となった。(渡辺慎二くんは“お目付け役”のご息女が同伴されたので実人員は38名)

因みに、過去の出席者数を追ってみると、H25:会員数81-出席者47、H26:80-44、H27:76-43、H28:74-37であり、会員数も出席者数も減少傾向にあることはやむをえないことと思わざるを得ない。

毎年続けてくれば同期会の次第はどうしても定形化するもので、今回は中村正二くんの司会進行、会長挨拶(天野)、母校新校舎完成と同窓会事項の報告(中村5期委員)、乾杯(遠路出席の籠山丘くん)で懇親会といういつものパターン。立食パーティなのに用意した椅子に陣取って歓談に興じる者多く、参加人数よりも多く手配した椅子は満席状態。それでも少しエネルギーが補給されて和やかな懇親会となった。

一段落したところで、出席者のスピーチになり、司会中村くんの当意即妙の指名でこれまでにない人数からの“ひとこ

と”があったことが特筆される。

最初是天野の「つぶやき:“5期会をどうする?”」

(この件は、来年の同期会で結論をだすことにしたので、ここでは内容省略)。

菅田栄一くん:「栄光同窓カトリックの会で棟居洋くんによる“宗教改革500年にあたって”の演題で講演をお願いしたので、聴講希望があれば受け付ける。5月20日(土)14:00～17:00 於:カトリック大船教会」

岡部力弥くん:「叙勲 瑞宝双光章 の報告」

山内浩行くん:「スリランカ・セイロン島訪問記」

服部和男くん:「寝たきり予防にダンス」

里見佳昭くん:「里見腎泌尿器科ニュースレターの‘THE 5期’への転載にひと言」

坂井 忠くん:「‘THE 5期’に“これまでの生きざま”みたいな記事の特集はどうか?」

ほか、5期会懇親パーティに代わる“集まる会”についてのアイデアなどの発言もあって、これまでと少し違った雰囲気での盛り上がりとなった。

そうしているうちに早くも定刻となり、坂井忠くんの指揮で「千里の波濤」と「Eiko High Forever」を合唱、続いてエール「フレイフレイ5期!」、閉会挨拶:和泉沢政人くんの後、記念撮影をしてお開き。

次回の懇親会は 平成30(2018)年4月21日、今回と同じ場所・同じ時刻 ということを確認して散会した。

(追記)5期会終了後日をおかずに“5期会をどうする?”について天野の発言全文を5期会出席者・欠席者の全員に郵送、意見募集をしている段階にある。4月段階での回答は当日の意見発言も含めて10数名、来年まで悩みは続く…。



5期同期会 (2017.4.1)

8期同期会報告(2017年8月8日)

田辺 宏 (8期)

八期会は今年も8月8日に開催された。迷走台風5号が丁度来襲する予報だったので心配されたが、幸い北陸へそれてくれ、予定された50名全員が出席できた。この11年、毎年開催しており、今年も3回目となる横浜銀行の横浜シティクラブでの開催。同行OBの山野井君に尽力願った。司会は今年で9回目の高井君、大変な受付は今年も矢口君・山野井君がやってくれ感謝である。

さて、当日の報告へ移ろう。

開宴に当たり、前会以降に亡くなった松島君他28名の仲間と恩師のご冥福を祈って黙祷。続いて、その場で頼んで快諾してくれた並木君の発声で乾杯。先立っての近況説明では、2日前、76歳になったが、ストレスも無く、太り気味の由。次に小生より、毎年配布している「出欠表」について説明。すかさず司会者が、11年連続出席が16名、一回欠席が17名計33名と多く、今後とも心配ない、とフォロー。

続いて、八期の同窓会常任委員の河相君が、事前作成・配布した「同窓会便り」の補足と6日の70周年記念演奏会、同パーティーで、青木・稲田先生と会ったが、お元気だった由。

同窓会ホームページの紹介、寄付の状況、同窓会費の納入状況等で、ネットをやる人はご覧あれ。次は、広島から

来た元栄光校長の作道君が促され記念演奏会が満席、パーティーが350人と盛況で、芸術面においても活躍する後輩が多く誇らしいと短めに挨拶してくれた。

飲み放題のアルコールとたくさんの料理を勧めるべく、司会がアナウンスすると、途端に歓談による騒音の渦。親しい友との会話が一番である。

ややあって、久しぶり参加の面々の話を促す。

最初は、未だ京浜急行の会長の石渡恒夫君。53年間この会社一筋で頑張っていること、人口減少等の問題の他、会社の2箇所のゴルフ場のPRはさすがに抜かり無い。次は、久しぶりの金子功君。70周年記念オーケストラの演奏が素晴らしかったこと、ハレルヤコーラスが、昔酒井先生に激励されて歌ったことを蘇えらせてくれ、感激した由。続いてガンの権威の加藤洋君が指名されたが、未だ現役なので、いつも遅れてしまうこと、白内障の手術を受けたら、明るく見えるのに驚いたこと、何かあったら協力する旨言ってくれた。次に今日は欠席のサックス奏者である高橋三雄君に最近弟子入りしたという宇多君。76歳の手習いで、彼の元へ2回/月通っている由。期待しよう。ややあって神田君が参加しているバンド演奏会のPR、次にオール栄光コンペへの出場者4名の紹介と松木君の決意表明があった。次は、栄光の歯科校医を35年間、無償でやってきた川田先生の演説。換算すると約1400万円学校に寄付した事になる由。その他、「歯の噛み合わせの大切さ」を実に面白く演説してくれたが、その雰囲気は伝えられず残念である。最後は恒例の合唱、



我らの指揮者の石川先生の音頭で、「いつもの3曲」を声高らかに歌い、スッキリした気分になった。

何時ものとおりに集合写真を撮ったが、皆良い顔で収まっている。来年も8/8(水)、ここで開催すると約束し、再会を期して解散した。

27期 vs 28期スポーツ大会開催

27期. 28期有志

5月28日、27期と28期の対抗戦スポーツ大会が行われた。これは例年27期が行っているソフトボール大会に28期が混ぜてもらい、テニス、卓球、バスケットボール、フットサル、ソフトボールで勝負しようという試みです。すでに昨年の28期の同期会には27期中村洋一郎氏が果たし状を持って乱入？し、28期がこれを受けて立つ形が整っていました。

日頃の両学年の行いの良さが絶好の天気にも恵まれ、昔の精鋭たちはグラウンドへ、体育館へと散っていきました。怪我だけはしませんように。

テニス

テニスの部は、テニスコート4面を使い4ゲーム先取のダブルス4試合を3ラウンド繰り返しました。各ラウンド8人で4ペアを作り、毎回ペアを組み替えながら3ラウンド、延べ12試合の勝ち数で勝敗を競いました。

毎年ソフトボール大会等で集まり、準備に余念の無い27期に対し、戦力不足と運動不足が否めない28期は、迫先生(現役バリバリ！一番足が動いておられました)と高田先生(28期OB、現テニス部顧問、相変わらず太ももがまぶしい！)に参加して頂いたものの、総合力で勝る27期が7勝5敗で押し切り、20ポイントを獲得しました。

各ラウンドの4ペアは必ずしも実力順に出していく必要はないため、相手側の最強ペアに対してこちらははずし、それ

以外のペアに対して競り勝ちに行く、といった出場オーダーを決める際の戦略の妙味があり、そのあたりも勝敗の分かれ目になった気がします。団体戦で勝敗を競う緊張感も久しぶりで、当時のスポ大の感覚が懐かしく思い出されました。

コート使用を許可して下さった関係者の皆様、スムーズな試合進行に協力頂いた参加者の皆様、有難うございました。来年のリベンジに向け、28期は、練習と戦術の検討を開始しております。27期も振り返りにするべく一層精進します。

報告： 松村武人(27期)、田中良樹(28期)

フットサル

第2ブロックの競技の一つとして、フットサルが行われました。試合会場は講堂の奥にあるグラウンドで、フットサル同好会が使用しているコートです。普段運動らしいことは何にもやってない者から今でも現役でサッカーを続けている者が混じる中、「親睦が目的なので、勝ち負けよりもケガをしないことに気を付けてプレイしましょう」という27期堀内審判の声掛けのもと、7人制による10分×3セットの試合が始まりました。

先制点を挙げたのは28期の南雲君。左サイドで角度の無いところから左足を振りぬいて放たれた強烈なシュートは、27期キーパーの長野君が反応できない見事な一撃でした。その後は一進一退のまま1-0で第1セットを終了。

5分間のインターバルをおいて始まった第2セットも白熱した攻防が続きます。27期がゴールを攻め立てるも、28期のキーパー田中君が現役時代を彷彿とさせるセービングを披露して両チーム無得点のまま終了。

いよいよ勝負を決する第3セットの前のインターバルでは、28期ベンチで「勝っていると思うな！」と気合の入ったゲキが飛び、27期もつられるように闘志が掻き立てられます。何とか追いつきたい27期の攻撃が始まる中、カウンターパンチとなる得点を決めたのは28期の大塚君。ゴール前の28期手塚君がブラインドとなりセンタリングがそのままゴール。これで2-0となり勝負あったかと思われましたが、なおも諦めない27期の攻撃が続き、ゴール前の混戦から松本君がしぶとく押し込んで1点差に詰め寄ります。勢いを取り戻した27期の猛攻が続きますが、28期も体を張ってゴールを防ぐ中、審判の笛が鳴ってゲーム終了。1点差を守り切った28期が勝利の凱歌をあげて20ポイントを獲得しました。普段やりつけない運動を行った選手たちは疲労困憊でしたが、心配された怪我人もなく、お互いの健闘を讃えあいました。

報告： 堀内英樹(27期)、手塚正彦(28期)



迫先生にも助っ人をお願いしたテニス

ソフトボール

第3ブロックの競技は、全員参加によるこの日のメインイベント、ソフトボールです。

第1ブロック、第2ブロックの4競技終了時点で、27期が僅か1競技分勝ち越し、総合優勝はこのソフトボールの結果如何にかかるといふ最終競技に相応しい展開となりました。

試合会場は、40年前の当時のスポ大と同じフィールドの芝グラウンド。試合形式は、1試合5回戦を2試合行い、各試合の勝者に各々20点ずつ加算される、という方式です。

またこの日の特別ルールとして、いくつか年齢を考慮したルールを設けました。リード・盗塁禁止、2ストライクのあとのファール3回でバッターアウト、守備要員は9名+1名の10名など。この場合、プラス1名が自由に守備位置を変えることができ、例えば、長打が予想される場合には外野を4名に、得点圏にランナーがいる場合には内野に1名追加する等、場面によってシフトを自由にとることができます。

戦前の予想では、27期はここ十数年母校でソフトボール大会を毎年実施してきたので、圧倒的に有利なのでは、という前評判でした。

第一試合は、ピリピリと緊迫した雰囲気の中、お互い守備の綻びも少なく、1点を争う好ゲームとなりました。結果は、27期が最終回のピンチも凌ぎ切り、9対8の接戦で勝利をものにしました。

つづいての第二試合は、27期は野球部を中心とした精鋭メンバーを揃え連勝態勢で臨みましたが、インコースの球をカんでフライにしてしまう場面など多々あり、実力が空回りしてしまいました。

一方28期は、1試合目でボールのスピードにも慣れ昔の勘を徐々に取り戻してくると、外野陣の頭を越える長打が何本も出て、17対6と圧勝しました。

飯野先生も第二試合では28期の助っ人として出場され、センター前の10人目の守備で、通常ではセンターに抜ける当たりで1塁ランナーをセカンドフォースアウトにするなど、特別ルールを大いに活かすことに成功しました。

他にも、激しいダイビングキャッチで眼鏡を壊す者あり、新校舎に届きそうな大飛球をかつ飛ばす者あり、連続三振で1球もバットにボールが当たらない者ありと、当時のあの若い頃を彷彿とさせる白熱したプレイの数々が展開されました。

その結果、1勝1敗の五分で仲良く20点を分け合い、メインイベントは無事終了しました。

報告： 村田恭夫・渋谷直人(27期)、石川英一(28期)



バスケットは28期がボロ負け！！

当日は迫先生、飯野先生の応援参加もあり、昼の休憩時には新校舎の見学会ありと盛り上がり、総合で27期の勝利に終わったこのスポーツ大会の打ち上げの席で、早くも28期は来年度の雪辱を誓うのでした。



スポ大参加者全員集合～！！

栄光サッカー部OB会創立ほぼ70周年記念大会 (報告)

栄光サッカー部OB会事務局 高橋正明 (19期)

「サッカー部OB会創立ほぼ70周年記念大会」を下記の通り開催致しました。当日は、新校舎見学ツアーなども事前に併設し、1期生以下草創期の先輩たちから今年の3月に卒業したての65期生までの全学年に呼び掛け約100名のOBが賑やかに大集合しました。

■日時:2017年7月8日(土)18:00~20:00

■場所:栄光学園聖堂2階ホール、他

坂本実行委員長(17期)の開会宣言に始まり、望月会長(16期)、望月校長からの挨拶をいただき、更に約80年近くも前の栄光創設時代のサッカー部創立メンバーの一人である佐野 碩先輩(1期)の力強い乾杯に感動しました。引き続き、実行委員会の準備したスライドを見ながらOB会の陣容概略構成、OB会活動概要、神奈川県サッカー大会実施状況、サッカー部顧問紹介、栄光チームの課題、OB会有志による後援会活動概要、そして「OB会の夢など盛りだくさんの状況説明となり、ようやく料理・歓談の運びとなりました。

中盤で各世代別に全体を4つのカテゴリー(1期~15期、16期~35期、36期~55期、65期~65期)に大別して、それぞれ紹介と集合写真の撮影会を行いました。参加者の思いとしては、創設当時の田浦神話の時代の話や栄光サッカー部が全国大会に出場したり関東大会や地区大会で優勝を重ねた強かった時代の話、決して忘れない逸話などたくさん聞きたい話があるはずなのに、80歳過ぎの最長老から卒業したての未成年の浪人生までが一同に会してみると違

和感はまったくありませんが、身動きするのも辛い状況でようやく同期の仲間を見つけるのが精一杯という会場風景となりました。

会場には、創立から15年程続いて発刊された部誌「DASH」や表彰カップ、応援

旗などの展示もありましたが、これらの伝説や逸話、記録を後世に伝えるためにも「DASH 復刻電子版」を蘇らせる必要があります。

しかし、今回唐突に大集合となりましたが、それでも年齢差や趣旨の理解にブレが無く、サッカー部を軸に大会が和気藹々と進められ、時間通りの閉会后片づけも参加者の協力の下すみやかに終了して、それぞれ小グループに分かれて大船駅近辺での二次会に繰り出すことができた事は、一つの事実として大変喜ばしい意義のあるイベントだったと思われまます。これを一つのきっかけにして今後も引き続き節目の大会を企画して欲しいものです。

なお、開催当日の詳細については、栄光サッカー部HP (<http://www.eiko-soccer.net/>) 新着情報をご覧ください。本HPから、写真集やスライド資料などのダウンロードもできます。



1期佐野先輩の力強い乾杯



茅ヶ崎栄光同窓会 総会・懇親会 報告

来年は支部結成10周年～

より多くの仲間を！

金子 和 (27期)

茅ヶ崎栄光同窓会は5月27日(土)に総会・懇親会を開催しました。

本会は「茅ヶ崎を楽しむ同窓会づくり」を心掛け、そのひとつとして「茅ヶ崎 美味しいおみせめぐり」を企画し、懇親会・新年会の会場を毎回毎回かえながら、美味しい食べ物・飲み物を囲み、楽しい時間を過ごしております。今回は、山口洋一郎(13期)さんが設計された茅ヶ崎美術館の館内で営業するカフェ「Le Chemin」(ルシュマン)で開催しました。このカフェは、茅ヶ崎に本拠を置く乃羽バレエ団芸術監督 兼 乃羽バレエスクール校長の乃羽ひとみさんが昨年からの経営を引き継ぎ、監修されております。「飲食店の経営はまったくの素人なんです。」と謙遜される乃羽オーナーは、料理人というよりはむしろ市民の目線で、パン、お魚、お肉、ハム、ローストビーフ、ワインなど、茅ヶ崎市内・近隣の食材を厳選して仕入れ、貸し切りの会場をご用意くださいました。仕入先は市場や問屋ではなく、茅ヶ崎市民が普段から買い物をする人気のパン屋さん、肉屋さん、魚屋さん、酒屋さんで、このカフェに来れば、茅ヶ崎市民のおしゃれな食卓を楽しむことができます。当日は乃羽オーナー自らフロアでサービスして下さいました。

総会の部では、活動報告、会計報告につづき、

①来年1月21日(日)に新年会を開催する

②来年は茅ヶ崎栄光同窓会支部創設10周年の節目につき、参加者が増えるような企画や案内方法を考えましようとの活動計画が提案されました。加えて、母校の新校舎の説明、70周年記念のコンサート・パーティの案内があり、充



茅ヶ崎栄光同窓会

後列 左より 金子和(27期)、乃羽ひとみ、伊藤紀一郎(22期)、山口洋一郎(13期)、酒井伸雄(2期)、前列 左より 壺岐太(32期)、島崎裕之(26期)、山本明德(7期)

実した総会となりました。

懇親会の部は、酒井伸雄(2期)さんの乾杯のご発声ではじまり、山本明德(7期)さんの締めのおことばをいただいたあと、会場が貸し切りだったので、「千里の波濤」「緑なす相模野」「Eiko High Forever」を合唱しました。

歴史文学散歩:鎌倉の洋館巡り

実施日:2017年3月30日(木)

池添尚行 (2期)

3月30日10時JR鎌倉駅西口にOB、OB母親たち20人が集まりました。晴天に恵まれた一日でした。

2期は平成9年から約30回日帰り(そのほか泊りも5回位)の「あるこう会」を続けてきましたが、3年前に世話役が病氣引退して解散しました。そのため栄光の「歴史文学散歩」は今回初参加しました。

最初の御成小学校前で、ガイド役の三春さん(6期)を囲んで全員の自己紹介がありました。おまとめいただいたレジメは、各洋館の写真・略歴・見どころが要領よくまとめられ、地図も加えられた14頁の労作でした。

御成小学校から長谷駅近くの白日堂まで9軒見学の後、長谷一和田塚を電車で移動し、日本基督教団鎌倉教会の見学後昼食にしました。弁当組6人は付属幼稚園校庭のベンチで弁当を使わせていただきました。

教会の祭壇上部に3枚のステンドグラスがありますが、見学した3月の下旬に修復のため取り外されたとのことで、教会本体も修復を予定しているため、修復後に見られるのは5～10年後になりそうだとのお話でした。

現在は外す前のカラー写真とのことですが、結構綺麗に見えました。日本近代ステンドグラスのパイオニアといわれる宇野澤辰雄(ドイツで修業)と小川三知(アメリカで修業、生年は二人とも同じ)の小川氏により制作され、教会の再建後の大正15年に嵌められたそうです。

午後は伊藤邸から古我邸まで9軒見学しました。途中鎌倉駅東口近くの本覚寺境内を通った時、しだれ桜が満開だったので集合写真を撮りました。なお駅東口で数人が早退しました。

古我邸で解散し、駅西口に4時につきました。鎌倉市内だけで私の万歩計は約1万7千歩でした。

見学20軒中レジメでも記入されていましたが、16軒が市指定「鎌倉景観重要建築物(平成2年指定開始)」でした。また今回三春夫妻とは4年前イタリアツアーでご一緒させていただき、6期の八木さんとはお兄さん(2期)に大学寮や部活(工学部



古我邸にて集合写真

新聞部)でお世話になりました(1浪なので私は後輩)。楽しい出会いにも恵まれた散歩会でした。

今回の参加者は2期1人、3期1人、6期6人、7期1人、8期2人、9期、10期、13期、14期、21期各1、母親(夫5期、兄10期、15期)、同(弟13期)、同(夫6期)、同(息子25期)以上20人でした。

歴史文学散歩：生田緑地日本民家園 実施日：2017年5月24日(水)

佐伯 和良 (3期)

2017年5月24日(水)10時に小田急線向ヶ丘遊園駅南口に14人が集まった。引率は6期の三春勝正さんと14期の大島弘尚先生だった。先ず駅前からバスで藤子・F・不二雄ミュージアムバス停まで行き、近代的なミュージアムの前を通って生田緑地ばら苑まで緩い上り坂を歩いた。このばら苑は、小田急向ヶ丘遊園の開園に伴い園内のばら苑を2002年に川崎市が引き継いだものだが、その歴史は古く開園は1958年で当時は「東洋一のばら苑」と賞されたという。園内は広くおよそ530種、4700株のばらが開花していて個人では効率よく見られないので、時間を切ってボランティアガイドの江口美和子さんに案内していただいた。

バラの命名方法や、花が終わったら3枚葉の下、5枚葉の上で切るなどの選定方法も教えてもらい、我が家のバラで実践した。

20世紀を代表するバラとしてピースという品種があり、その子供たちはピースファミリーと呼ばれているという。イングリッシュ・ローズコーナー、ロイヤルコ

ーナーなどで説明がありローズガーデンハウス近くの広場で集合写真を撮った。

最後に富士山付近や箱根にあるサンショウバラを見てばら苑を後にし、95.5haの面積を持つ生田緑地内の日本民家園に向かった。

ここでもボランティアガイドの案内を1時から予約していたのでその前に、「かわさき宙(そら)と緑の科学館」の付近でそれぞれ持参の昼食をとった。

今年、開園50周年を迎える川崎市立日本民家園は江戸時代の東日本の代表的な古民家の他、水車小屋・高倉・農村歌舞伎舞台など25の文化財建造物を展示する野外博物館であるという。ボランティアガイドの吉浜彰啓さん、羽石一夫さんに全部の展示物の見学はできないので2時半まで見計らった案内をお願いした。

ボランティアの主な仕事は囲炉裏を焚いて家を燻すことだと聞かされた。

先ず、明治時代後期の川崎の原家住宅で日本の木造建築技術を紹介された。続いて宿場、信越の村、関東の村、神奈川の村、東北の村など23の住宅や施設の内、主なものを時間の許す限り案内された。

耐震対策や基礎工事など建物の維持管理に相当な労力や費用が掛かっていると感じた。

古民家では戦時中に疎開した家をおもいだした。

民家見学中NHKの取材があり収録していた。一週間後の昼の時間にかなり長く放映されたが我々は誰も映っていなかった。

民家見学後に見た、志摩半島の漁村で歌舞伎芝居を演じていたという「船越の舞台」は花道や回り舞台まで備えていた。

伝統工芸館では 本藍染めが展示されていた。



ばら苑にて

民家園見学後ここまで残った人たちで集合写真を撮った。
3時から前述の「かわさき宙と緑の科学館」でプラネタリウムを見学した。ここでは木星の縞模様や春の星座を見た筈だが快適なソファでうとうとしてしまった。ここを出てから解散した。この日の行程は歩数計で10900歩だった。

〔予告〕バドミントン部OB会総会のご案内 2017年11月11日(土)開催

樋口祐介 (57期)

毎年恒例の栄光学園バドミントン部OB会総会を、下記の通り開催致します。同期の方などとお誘い合わせの上、是非ご出席下さいますようご案内致します。

記

日時:2017年11月11日(土) 午後6:00～

会場:横浜中華街 萬珍樓 本店 (従来どおり)

<http://www.manchinro.co.jp/>

(045-681-4004)

会費:8,000円 (学生:5,000円、65期:4,000円)

会場準備の都合上、10月27日(金)までに出席をお知らせ下さい。ご返答は、60期下村のメールアドレスにお願いします。<m.shimomura0204@gmail.com>

〔予告〕第17回バドミントン部OBゴルフコンペのご案内 2017年11月19日(日)開催

島崎裕之 (26期)

標記のコンペを下記のとおり開催いたします。

参加をご希望の方は、26期島崎、

E-mail: hiroaya.40391@gmail.com

Mobile:090-1660-5583までご返信ください。

なお、先着3組(12名)になり次第締め切りますので、早めのお申し込みをお願いいたします。

記

日時:11月19日(日)

会場:ファイブハンドレッドクラブ

<http://www.500club.jp/overview/>

8:50～9:06スタート

三島駅より送迎ありのため、ご希望の方は合わせてお申し出ください。時刻等詳細は追ってご連絡いたします。

● 訃報(2017年4月1日以降判明分)

先生

ジェラード・ブルカ神父(英語)2017年8月20日

卒業生

横山 敦氏	(42期)	2016年1月30日
鈴木 荘一氏	(11期)	2016年2月5日
大岡 雅和氏	(49期)	2016年9月27日
関野 洋氏	(3期)	2017年1月5日
行方 國雄氏	(21期)	2017年2月14日
遠藤 隆之氏	(3期)	2017年3月4日
池田 康寛氏	(18期)	2017年4月1日
中谷 義一氏	(2期)	2017年4月22日
小沼 宅氏	(18期)	2017年5月2日
藤井 泰造氏	(3期)	2017年5月21日
早川 武雄氏	(2期)	2017年5月29日
大苗 敦氏	(25期)	2017年6月12日
平川 貢氏	(19期)	2017年6月16日
楠 尚道氏	(4期)	2017年6月17日
川名 寛氏	(3期)	2017年7月17日
興水 誠氏	(2期)	2017年7月29日
阿部 雅昭氏	(2期)	2017年9月6日
森田 眞氏	(7期)	2017年9月11日

謹んでご冥福をお祈りいたします。

● 次号(第89号):2018年4月発行予定。

● 投稿歓迎

同期会や支部のイベント報告、個人の体験記などの投稿を歓迎します。標準サイズは文章1,200文字程度+写真1枚。同窓会事務局宛てメールまたは封書でお送りください。

メールアドレス:admin@eikoalumni.org

住所:(本号第1頁にあります)。

● 編集後記

70周年記念事業による新校舎建築に向けて、同窓会の活動もOBフォーラムを実施したり、記念コンサートや記念パーティを企画したりイベントが盛りだくさんでした。会報The Eiko Alumniも呼応して大船校舎の思い出について記事を募ったり、建設中や竣工直前の新校舎の写真を掲載したりしてまいりました。

特集として新校舎を取り上げることはなくなりましたが、これからも学園通信から現役学生たちの姿をお伝えしたり、同窓会活動などのために母校を訪れたOBたちの新校舎への期待の声から、折に触れ学び舎として動き始めた新校舎についてお伝えしていければと思います。(高橋)